

石川県こころの健康センター所報

第 32 号

(平成21年度実績)

石川県こころの健康センター

目 次

はじめに

I こころの健康センター概要

1 沿 革	1
2 施設の概況	2
3 組織・機構	3
4 業 務	5

II 平成 21 年度こころの健康センターの活動

1 庶務課業務	7
(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付について	7
(2) 自立支援医療費（精神通院医療）支給認定について	8
(3) 精神医療審査会	9
2 相談課業務	10
(1) 技術指導及び技術援助	10
(2) 教育研修	12
(3) 普及啓発	17
(4) 調査研究	20
(5) 精神保健福祉相談	21
(6) 特定相談指導事業	30
(7) 組織育成	31
(8) 在宅精神障害者社会復帰促進事業（田園クラブ）	34
(9) 青年期心の健康づくり推進事業	36
(10) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業	38
(11) 自殺予防対策推進事業	38

3 支援課（発達障害支援センター）業務	40
（1）発達障害児（者）及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援	40
（2）精神科医による相談事業	42
（3）青年期グループ活動	43
（4）親のつどい	43
（5）関係機関等との調整会議	43
（6）機関コンサルテーション	44
（7）個別支援のための調整会議	45
（8）普及啓発及び研修	46

Ⅲ 資 料

1 保健所の精神保健福祉活動（平成21年度）	49
精神保健福祉相談・訪問状況	49
2 その他の資料	50
こころの健康センター貸出しビデオテープ・DVD一覧	50

I こころの健康センター概要

1 沿 革

昭和 41 年 10 月	石川県社会福祉会館内に石川県精神衛生センターが開設される。
昭和 56 年 11 月	金沢市南新保町ル 3-1（現在地）に新築移転する。
12 月	デイ・ケア事業、乳幼児発達相談事業（～平成 8 年度）を開始する。
昭和 57 年 4 月	特定相談指導事業（アルコール関連問題、思春期精神保健に関する相談指導等）を開始する。
昭和 58 年 4 月	親子通所センターが児童相談所より移管される。 同時に庶務課、相談課、訓練課の課制が施行される。
昭和 61 年 4 月	心の健康づくり推進事業を開始する。
昭和 63 年 4 月	石川県精神保健センターと名称を変更する。 痴呆性老人通所事業を開始する。（～平成 2 年度） メンタルヘルス講座を開講する。（～平成 4 年度）
平成 元年 4 月	社会復帰連絡会を開始する。（～平成 5 年度）
平成 3 年 4 月	こころの相談ダイヤル事業を開始する。
平成 6 年 4 月	こころの健康フェスタ開催事業を開始する。（～平成 10 年度）
平成 7 年 7 月	石川県精神保健福祉センターと名称を変更する。
平成 8 年 10 月	ピア・カウンセリングセミナーを開始する。（～平成 15 年度）
平成 13 年 4 月	石川県こころの健康センターと名称を変更する。
平成 14 年 4 月	精神医療審査会、通院患者の公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する業務が石川県健康福祉部障害保健福祉課より移管される。
平成 14 年 10 月	住所表示が金沢市鞍月東 2 丁目 6 番地に変更される。
平成 17 年 4 月	発達障害支援センターが設置される。
平成 18 年 4 月	親子通所センターが閉所される。
平成 20 年 9 月	石川県精神科救急情報センター 「いしかわこころの救急ダイヤル」事業を開始する。

2 施設の概況

(1) 土地

所在地 石川県金沢市鞍月東2丁目6番地 (〒920-8201) TEL 076(238)5761

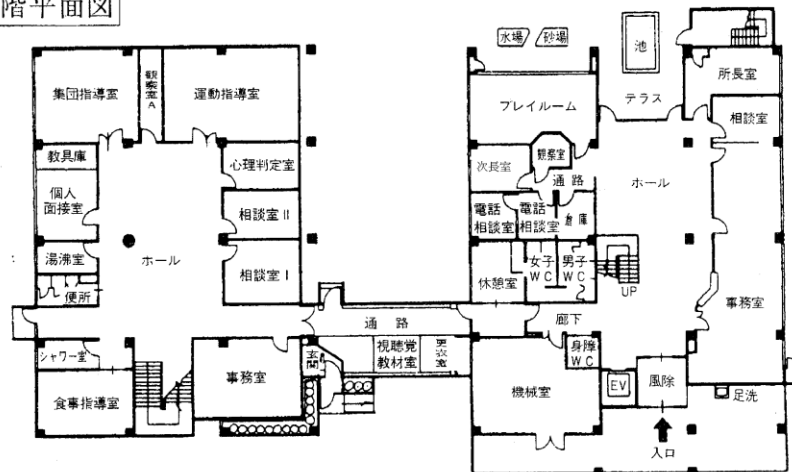
敷地 3,141 m²

(2) 建物

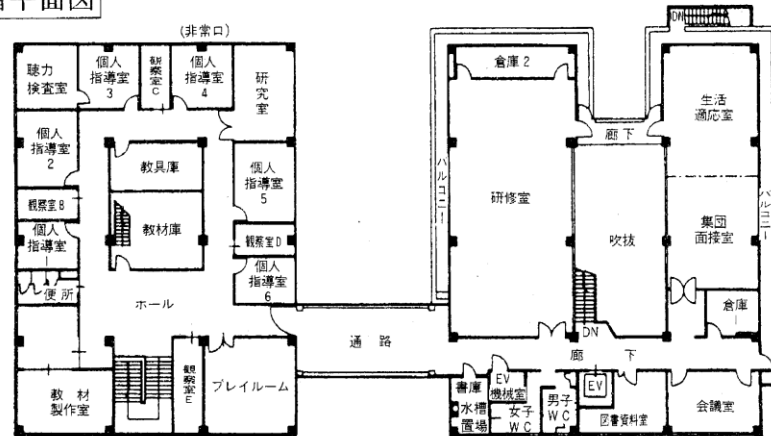
鉄筋コンクリート2階寄棟造 延1,761.26 m²

《館内平面図》

1階平面図



2階平面図

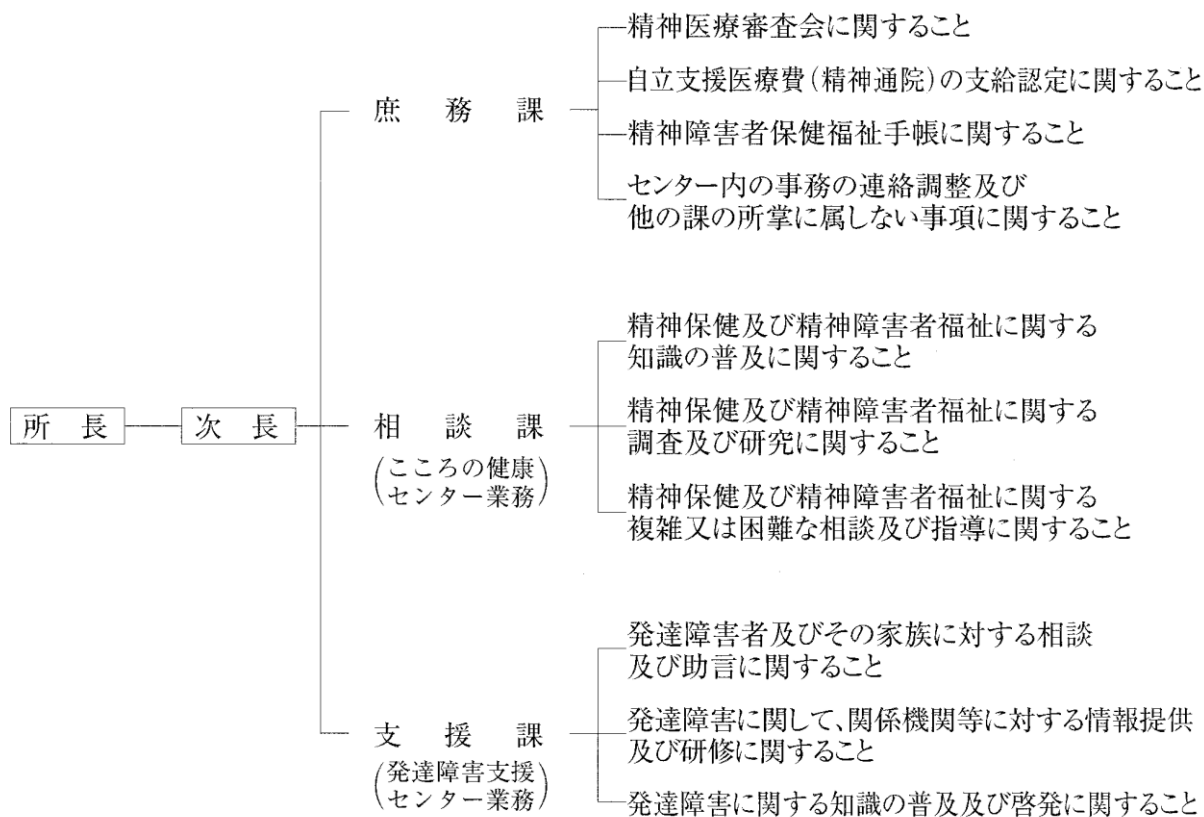


(発達障害支援センター)

(こころの健康センター)

3 組織・機構

(1) 機構



(2) 職種別職員数

(平成22年12月1日現在)

職 種		医 師	保 健 師	看 護 師	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	福 祉 指 導 員	心 理 判 定 員	電 話 相 談 員	保 育 士	事 務 職 員	運 転 技 術 員	庁 務 員	計
職員数	常 勤	1	3	3	1	2	6	—	1	4	—	1	22
	兼 務	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2
	非常勤	3	—	—	—	—	3	11	—	—	1	1	19
	計	5	3	3	2	2	9	11	1	4	1	2	43

(3) 課別職員数

(平成22年12月1日現在)

課 名	職 種	職 員 数			計
		常 勤	兼 務	非 常 勤	
所 長	医 師	—	1	—	1
次 長	医 師	1	—	—	1
次長兼庶務課長	事 務 職 員	1	—	—	1
次長兼相談課長	保 健 師	1	—	—	1
庶 務 課	看 護 師	2	—	—	8
	事 務 職 員	3	—	—	
	運 転 技 術 員	—	—	1	
	庁 務 員	1	—	1	
相 談 課	医 師	—	—	1	22
	保 健 師	1	—	—	
	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	1	1	—	
	福 祉 指 導 員	1	—	—	
	心 理 判 定 員	4	—	2	
	電 話 相 談 員	—	—	11	
支 援 課	医 師	—	—	2	9
	保 健 師	1	—	—	
	看 護 師	1	—	—	
	事 務 職 員	—	—	—	
	福 祉 指 導 員	1	—	—	
	心 理 判 定 員	2	—	1	
	保 育 士	1	—	—	
計		22	2	19	43

4 業 務

I 庶務課

平成 14 年度に石川県健康福祉部障害保健福祉課から移管された次の業務を行っている。

- (1) **精神医療審査会に関する事務**
- (2) **自立支援医療費（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳に関する事務**

II 相談課

相談課は精神保健福祉センター業務を担い、「精神保健福祉センター運営要領」（平成 8 年 1 月 19 日健医発第 57 号厚生省保健医療局長通知）により、次の業務を行っている。

(1) 企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、県本庁及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

(2) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため保健所、市町及び関係諸機関等に対し、専門的立場から技術指導及び技術援助を実施する。

(3) 教育研修

保健所及び精神保健福祉に関係する諸機関の職員の技術的水準の向上を図るために、教育研修を実施する。

(4) 普及啓発

県民の心の健康づくり対策として、精神保健福祉の知識と精神障害についての正しい知識等の啓発普及を行うため、パンフレットやパネルを作成したり、ビデオカセット（VHS 方式）の貸し出しをする。また同様の趣旨で職場、学校、福祉関係機関、市町の公民館などで開催される講演会や研修会へ講師を派遣する。

(5) 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究を実施するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料の収集整備をする。

(6) 精神保健福祉相談

幼児から老人まで、また自分自身のことから家族・同僚に至るまで、広く心の問題に関する面接及び電話相談に応じる。

(7) 特定相談指導事業

アルコール関連問題や薬物関連問題、思春期精神保健に関する相談に応じ、関連問題の発生产防、精神的健康の保持増進への援助をする。

(8) 組織育成

地域精神保健関係団体の育成に努め、活動に協力する。

(9) **在宅精神障害者社会復帰促進事業（田園クラブ）**

在宅精神障害者の社会復帰の促進を目的としたクラブ活動を週 2 回実施する。

(10) **青年期心の健康づくり推進事業**

主に 18 歳以上の若者のひきこもり問題に対して、関係機関とネットワークを作り支援していく。併せて、保護者等の家族教室、および本人のためのグループ活動を実施する。

(11) **ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業**

ドメスティック・バイオレンスに悩む男性のための相談窓口を開設し、関係機関連絡会を開催して、問題改善のための連携強化を図る。

(12) **関係機関との連携**

地域精神保健福祉活動の円滑な推進を図るために保健所等との精神保健福祉業務連絡会を開催する。

全国(66ヶ所)及び中部・近畿ブロックの精神保健福祉センター長会(20ヶ所)と中部ブロックの精神保健福祉センター連絡協議会(11ヶ所)に参加している。

Ⅲ 支援課（発達障害支援センター）

支援課は発達障害支援センター業務を担い「発達障害支援センター運営事業の実施について」（平成 17 年 7 月 8 日障発第 0708004 号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）により、次の業務を行っている。

- (1) **発達障害児(者)及びその家族等に対する相談支援**
- (2) **発達障害児(者)及びその家族等に対する発達支援**
- (3) **発達障害児(者)及びその家族等に対する就労支援**
- (4) **関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修**

（関係施設及び関係機関等との連携）

Ⅱ 平成21年度こころの健康センターの活動

1 庶務課業務

(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付について

① 対象

精神疾患(知的障害を除く)を有する方のうち、精神障害のため長期にわたり日常生活又は社会生活への制限がある方。

手帳の障害等級は1～3級まであり、障害年金で申請の場合は年金の等級がそのまま手帳の等級になります。等級の判定は、精神疾患(機能障害)の状態と能力障害の状態の両面から総合的に判定します。

② 交付手続き

都道府県が交付します。手帳の交付は申請主義によるものとし、精神障害者本人が申請するものとするが家族、医療機関職員等が申請手続きの代行をすることは差し支えありません。申請窓口は、居住地を管轄する市町です。申請方法には次の2つの方法があります。

- ・ 診断書による申請

申請書に医師の診断書(初診日から6ヶ月以上経過した日以降のもの)を添付して提出。

- ・ 年金証書・特別障害給付金受給資格者証による申請

障害年金等を受給している方が、申請書に年金証書等の写し、年金等振込通知書又は年金等支払通知書(直近のもの)、障害年金証書内容照会同意書等を添付して提出。

<精神障害者の写真>

- ・ 写真(縦4cm×横3cm)は脱帽して上半身を写したものであること。
- ・ 手帳の申請時から1年以内に撮影したものであること。

新規、等級変更、再登録の場合には手帳を交付しますが、更新の場合には決定後、市町において有効期限を公印等で訂正して更新日を記入します。

③ 手帳の有効期間

手帳に記載する手帳の交付日は、市町が申請書を受理した日で、手帳に記載する手帳の有効期限は交付日から2年が経過する日の属する月の末日となります。

なお、更新申請は有効期限の3ヶ月前からできます。

(2) 自立支援医療費(精神通院医療)支給認定について

① 対象

自立支援医療(精神通院医療)の対象となるのは、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する精神障害者又はてんかんを有する方で、精神通院医療の対象となる障害は、施行規則第6条の15に定めるとおり通院による治療を継続的に必要とする程度の状態の精神障害(てんかんを含む。)とする。

② 医療の範囲

精神通院医療の範囲は、精神障害及び当該精神障害に起因して生じた病態に対して病院又は診療所に入院しないで行われる医療です。

ここで、当該精神障害に起因して生じた病態とは、当該精神障害の治療に関連して生じた病態や、当該精神障害の症状に起因して生じた病態とし、指定自立支援医療機関において精神通院医療を担当する医師(てんかんについては、てんかんの医療を担当する医師)によって、通院による精神医療を行うことができる範囲の病態です。

③ 申請手続き

申請書は、受給者の居住地を管轄する市町に提出するものとする。提出を受けた市町においては、申請書、添付資料等を確認の上、該当する所得区分等を記入して都道府県に進達する。

ア 支給認定の申請のみを行う場合

- ・ 診断書【自立支援医療(精神通院医療)の診断書】及び「重度かつ継続」に関する意見書
- ・ 受診者及び受診者と同一の「世帯」に属する方の名前が記載されている被保険者証・被扶養者証・組合員証など医療保険の加入関係を示すもの。
- ・ 受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

イ 手帳の新規交付又は再交付の申請と併せて支給認定の申請を行う場合

- ・ 診断書(精神障害者保健福祉手帳用の診断書)及び「重度かつ継続」に関する意見書
- ・ 被保険者証等、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

ウ 有効期間が支給認定日の時点で1年以上残っている手帳を所持している方が自立支援医療費の支給認定の新規の申請を行う場合(ただし、精神障害者保健福祉手帳用の診断書に基づく申請により交付された手帳を所持している場合に限る。)

- ・ 被保険者証等、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料(高額治療継続者に該当する場合は、「重度かつ継続」に関する意見書が必要。)

※ 平成22年4月支給認定分の申請から診断書の提出を「毎年の提出」から「2年に1度の提出」に変更されました。支給認定開始日が平成22年4月1日以降の申請【平成21年度内に診断書に基づく支給認定(手帳同時申請も含む。)を受けている方に限る。】から適用となります。ただし、病状の変化及び治療方針の変更がある場合は、2年目においても診断書の提出を必要とします。

④ 支給認定の有効期間

新規の申請の場合は、市町が申請を受理した日を始期とし、その始期から1年以内の日で月の末日たる日を終期とする。また、支給認定の有効期間が終了し、継続申請する場合には、前回支給認定の有効期間の満了日の翌日を始期とし、始期より1年以内の日で月の末日たる日を終期とする。

なお、継続申請は有効期間の終了する日の3ヶ月前からできます。

<精神障害者保健福祉手帳所持者数・自立支援医療費(精神通院)支給認定者数>

(平成22年3月31日現在)

区分	加賀市	小松市	能美市	川北町	白山市	野々市町	金沢市	かほく市	津幡町	内灘町
手帳 1級	34	38	30	1	43	25	338	12	8	8
2級	154	221	114	9	299	117	1,491	88	63	62
3級	52	42	18	4	67	24	152	18	5	9
計	240	301	162	14	409	166	1,981	118	76	79
通院	625	883	371	29	844	365	4,391	298	264	191
区分	羽咋市	志賀町	宝達志水町	七尾市	中能登町	輪島市	穴水町	能登町	珠洲市	合計
手帳 1級	9	12	6	67	13	18	3	11	7	683
2級	52	36	26	248	58	74	24	63	40	3,239
3級	11	10	3	31	14	8	1	7	8	484
計	72	58	35	346	85	100	28	81	55	4,406
通院	224	209	105	886	244	293	117	218	174	10,731

(3) 精神医療審査会(年12回開催)

平成21年度件数

区 分	件 数
措置入院者の定期病状報告	23
医療保護入院者の定期病状報告	1,253
医療保護入院者の入院届	2,314
退院等の請求	35
計	3,625

2 相談課業務

(1) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し職員等を派遣し、専門的な立場から技術援助を行っている。

平成 21 年度の技術援助回数は 279 回で、そのうち保健所(保健福祉センター、地域センター、金沢市保健所及び福祉健康センターを含む。以下保健所と記す。)へは 57 回 (20.4%)、行政・教育・福祉等の関係機関へは 222 回 (79.6%)であった。

ア 保健所

平成 21 年度において保健所からの要請に応じ、事例検討会をはじめ精神保健福祉相談及び訪問指導、精神保健に関する知識の普及・保健活動、協力組織の育成、関係機関との連絡協調、患者クラブ活動等の援助、情報提供、その他の内容で指導・援助を行った回数は 57 回であった(表 1)。

表 1 保健所への技術援助及び技術指導回数

区 分	計	事 例 検 討 会	相 談 訪 問 指 導	知 識 の 普 及 ・ 保 健 指 導	協 力 組 織 の 育 成	関 係 機 関 と の 連 絡 協 調	患 者 ク ラ ブ 活 動 等 の 援 助	情 報 提 供 ・ そ の 他
南加賀保健福祉センター	4					1		3
加賀地域センター	1							1
石川中央保健福祉セン	3			1		1		2
河北地域センター	8	2	1					5
能登中部保健福祉セン	3	1						2
羽咋地域センター	3	1		2				
能登北部保健福祉セン	8			5			1	2
珠洲地域センター	11	5	3	2				1
金 沢 市 保 健 所								
金沢市駅西福祉健康センター	1							1
金沢市泉野福祉健康センター	12			5		2		5
金沢市元町福祉健康センター	2							2
合 計	57	9	4	15	-	3	1	21

イ 関係機関（保健所を除く）

県内の関係機関の要請に応じて、講義や助言等の指導援助を行っているが、平成 21 年度の保健所以外の行政や教育、医療機関への技術援助は 222 回であった。

区別では国・県への技術援助が 53 回と一番多く、次いで教育 42 回、医療機関 39 回、市町 21 回の順になっている（表 2）。

表 2 関係機関（保健所を除く）への技術援助及び技術指導回数

区 分	計	事 例 検 討 会	相 談 訪 問 指 導	知 識 の 普 及 ・ 保 健 指 導	協 力 組 織 の 育 成	関 係 機 関 と の 連 絡 協 調	患 者 ク ラ ブ 活 動 等 の 援 助	情 報 提 供 ・ そ の 他
国 ・ 県	53	18		9		11		15
市 町	21	12		1				8
医 療	39	9		3		8		19
福 祉	14		1	9		2		2
教 育	42	6	1	23		5		7
労 働	12	2				5		5
各種精神保健団体	9			2	1	4		2
学生教育・実習	8			6				2
社会復帰施設等	6	1				3		2
司 法	5					2		3
そ の 他	13	1		3		2	1	7
合 計	222	48	2	56	1	42	1	72

(2) 教育研修

平成 21 年度は、保健所および精神保健福祉に関する諸機関の職員を対象にした研修会を 19 回開催した。

ア 精神保健福祉担当者「基礎研修会」

地域における精神保健福祉業務が円滑に推進されるように、関係機関の職員を対象に、相談に係る基礎知識の習得や技術の向上を図ることを目的に基礎研修会を実施した。

	4月27日(月)	5月22日(金)
10:00	オリエンテーション	講義5「権利擁護に関する基礎知識」 講師 ころの健康センター相談課 担当課長 北村 義文
10:10～ 11:10	講義1「石川県における精神保健福祉行政について」 講師 石川県障害保健福祉課 主幹 木津 葉子	
11:20～ 12:20	講義2「精神保健福祉の動向」 講師 南加賀保健福祉センター 健康推進課主幹 荒田 稔	講義6「インテーク面接」 ～来所相談の留意点～ 講師 ころの健康センター相談課 主任主事 荒木 暢通
13:30～ 14:30	講義3「精神障害者に関する基礎知識」 ～理解と援助～ 講師 ころの健康センター 所長 清田 吉和	
15:30～ 16:30	講義4「精神保健福祉法」 ～入院形態・自立支援医療・精神保健福祉手帳～ 講師 ころの健康センター 相談課担当課長 琴坂 真由美 庶務課企画管理専門員 南出 直人	講義7「障害者自立支援法、社会資源の活用について」 講師 ころの健康センター相談課 相談専門員 中宮 久美子
参加者	市町職員、保健所職員、医療機関、障害者福祉サービス事業所職員 68名	市町職員、保健所職員、医療機関、障害者福祉サービス事業所職員 61人

イ 精神保健福祉担当者研修会

県内の関係職員を対象に精神保健福祉における援助関係のあり方について検討することを目的に、精神保健福祉担当者研修会を実施している。平成 21 年度は社会的入院者の地域での支援づくりを考えることを目的に、地域生活支援事業研修として行った。

地域生活支援事業研修会

日 時	平成 22 年 2 月 25 日（木） 10 時～16 時 30 分
場 所	石川県地場産業振興センター
内 容	講義「精神障害者の地域生活支援における私達の役割」 ～さまざまな立場からの展開に向けて～ 講師 社団法人日本精神保健福祉士協会 常任理事 田村 綾子
参加者	保健所担当者、自立支援員、その他関係機関職員 65 人

ウ アルコール関連問題研修会

アルコール関連問題に関する研修は、従来精神保健研修会の中に位置づけられ、昭和 57 年度より 3 年間及び昭和 61 年度、平成 2 年度に開催してきたが、平成 4 年度よりアルコール関連問題研修会として毎年行っている。

日 時	平成 21 年 10 月 23 日（金） 13 時～16 時 30 分
場 所	いしかわ総合スポーツセンター 2 階大研修室
内 容	アディクションセミナー 講義「本人・家族にできること、できないこと～ギャンブル依存症を中心に～」 講師 福井県立大学 准教授 西川 京子 当事者の体験発表
参加者	保健、福祉、司法、医療関係従事者、その他 125 人

エ 薬物関連問題相談担当者研修会

平成 12 年度より薬物関連問題相談指導事業が開始され、平成 18 年度より相談担当者研修会を行っている。

日 時	平成 21 年 10 月 9 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	石川県庁 1 1 階 1 1 0 5 会議室
内 容	講義「薬物依存症の理解と援助」 講師 国立精神・神経センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター精神保健計画部自殺実態分析室長 薬物依存研究部 診断治療開発研究室長 松本 俊彦
参加者	保健、福祉、司法、医療、教育関係の相談従事者 111 人

オ 思春期精神保健関係機関研修会

思春期・青年期の不登校・ひきこもりをはじめとする心の問題に対処するために、教育・医療・保健・相談機関の職員等を対象として、子どもたちの現状や問題点、取り巻く環境などについて理解を深め、より良い援助について考えることを目的に研修を行った。

日 時	平成 21 年 11 月 4 日（金）10 時～12 時
場 所	こころの健康センター研修室
内 容	事例検討会（摂食障害を中心に） 講師 国立精神・神経センター精神保健研究所 心身医学研究部部長 小牧 元
参加者	保健所、相談機関等関係機関職員及び中学、高校等の教諭等子どもの自傷行動等の相談に携わっている人 40 人
共 催	石川県精神保健福祉協会
後 援	石川県教育委員会

カ ひきこもり訪問支援者養成講座

開 催 日	内 容	講 師	参加者
平成 21 年 5 月 25 日 13:30～15:30	講義 「思春期・青年期のひきこもりへの支援」	山梨県立精神保健福祉センター （山梨県中央児童相談所副所長） 所長 近藤 直司	33 人

キ こころの緊急支援事業隊員養成研修会

こころの緊急支援活動を広く周知し、こころの緊急支援に携わる隊員を募るとともに、こころのケア従事者ならびに関係機関の理解を深めることを目的とする。

また、隊員および仮登録者に対して、実践的な訓練を実施し、こころの緊急支援活動に必要な技能の向上を図るため研修を実施した。

（隊員研修）

日 時（場 所）	内 容	参 加 者
平成21年8月28日 15:00～18:00 （石川県こころの健康センター 2階研修室）	講演「学校緊急支援～山口県CRTの実際」 講師 山口県精神保健福祉センター 所長 河野 通英	精神保健福祉関係者、教職員 19人

（合同研修）

日 時（場 所）	内 容	参 加 者
平成21年8月29日 9:30～12:00 （石川県地場産業振興センター新館第13研修室）	事例検討「石川県における学校緊急支援」 助言者 山口県精神保健福祉センター 所長 河野 通英	精神保健福祉関係者、教職員 33人

（基礎研修）

日 時（場 所）	内 容	参 加 者
平成21年8月29日 13:00～15:30 （石川県地場産業振興センター コンベンションホール）	講演「学校緊急支援～山口県CRTの実際」 講師 山口県精神保健福祉センター 所長 河野 通英	精神保健福祉関係者、教職員 80人

ク いしかわ子どもの心のケアネットワーク事業

子どもの心の問題に対し、医療、教育、保健、福祉が同じ認識のもとで連携し、子どもの健全な成長と発達を見守り続けることができる支援体制づくりを目指して平成20年度より実施している。H21年度は、子どもの心の問題に携わる関係者を対象に、相談対応の技術向上を目的に事例検討会や研修会を行った。

日 時 (場 所)	内 容	参 加 者
平成21年11月28日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第1回子どもの心のケアネットワーク教育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 10人
平成22年 1月23日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第2回子どもの心のケアネットワーク教育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 11人
平成22年 3月27日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第3回子どもの心のケアネットワーク教育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 11人
平成21年11月21日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第1回子どもの心のケアネットワーク保育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 5人
平成22年 1月16日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第2回子どもの心のケアネットワーク保育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 3人
平成22年 3月 6日 14:00～16:00 (石川県こころの健康センター)	平成21年度第3回子どもの心のケアネットワーク保育関係機関等検討会	精神保健福祉関係者 5人
平成21年 8月22日 13:30～16:00 8月23日 10:00～16:00 (石川県国際交流センター)	平成21年度第1回子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー	精神保健福祉関係者 44人
平成22年 2月27日 13:30～16:30 2月28日 10:00～16:30 (石川県地場産業振興センター本館3階第5研修室)	平成21年度第2回子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー	精神保健福祉関係者 131人

ケ 学生実習

① 実習

学 校 名	実施日数	受講者数
石川県立保育専門学園（専攻科）	1日	7人
石川県立看護大学	2日	4人

② 講義

学 校 名	実施日数	受講者数
金沢大学医薬保健学域保健学類	1日	82人
石川県立保育専門学園（専攻科）	2日	7人
金沢医科大学（公衆衛生学）	2日	120人
金沢工業大学大学院（臨床心理学専攻）	1日	6人

(3) 普及啓発

一般県民や関係者に対して、精神保健福祉や心の健康に関する理解を深め、地域社会における精神保健福祉活動の推進を図ることを目的として、講演活動や各種団体などが開催する研修会への講師派遣、「センターだより」等の発行やホームページの作成、マスコミを通じての広報活動等、普及啓発事業を実施した。

ア 主催または共催した講演会

期 日	講 演 会 名	内 容	参加者
21.11. 4	思春期精神保健 公開講演会	「摂食障害～心身両面からのアプローチ」 講師 国立精神・神経センター精神保健研究 所 心身医学研究部部長 小牧 元	109 人
21.10.23	アディクション セミナー	「本人、家族にできること、できないこと～ギ ャンブル依存症を中心に～」 講師 福井県立大学 准教授 西川 京子	125 人
22. 2.25	地域生活支援事業 講演会	「精神障害者の地域生活支援における私達の 役割～さまざまな立場からの展開に向けて～」 講師 社団法人日本精神保健福祉士協会 常任理事 田村 綾子	65 人

イ 講師を派遣した講演会

	依 頼 先	内 容	回数	参加人数
市 町	七尾市教育委員会	立志式「将来のために、今すべきこと」	1	70 人
	七尾市涛南中学校	子育て親子講座「思春期の心と体」	1	50 人
	七尾市和倉小学校	講義「食育ってなあに～心とからだが輝 くために～」	1	145 人
	鹿島郡学校保健会	鹿島郡学校保健研究大会「食で輝く、か らだ、やる気、家族の絆」	1	50 人
	かほく市立宇ノ気小学校	薬物乱用教室「薬物乱用防止につい て」	1	140 人
	金沢市生徒指導推進協議会	講演会「医療と学校との連携」	1	35 人
	金沢市立金石中学校	薬物乱用防止教室「薬物乱用防止につい て」	1	140 人
	金沢市立長田中学校	性教育講演会「思春期のからだの変化と こころの変化、性感染症の予防」	1	163 人
	野々市町立富陽小学校 PTA	講演会「子どもの心の育ちと親とのかか わり」	1	30 人

	野々市町教育委員会	野々市町教育サポーター養成講座「人の心を引き出す支援者であるために」	1	20人
機 関 療	富山県医師会	新生児死亡改善対策講習会「周産期における虐待予防～保健・医療の軽いネットワークから」	1	50人
関	ユースホステル協会	JICA 青年研修事業「石川県の精神保健福祉」	1	27人
		JICA 青年研修事業「スリランカ保健医療」	1	2人
係	吉光組	講演会「心も体も健康に」	1	80人
	子ども夢フォーラム	チャイルドライン受け手養成研修「子供達の心の発達～子どもの育ち～」	1	10人
機	星稜高等学校	薬物乱用防止講話会「喫煙防止・喫煙指導」	1	500人
関	日本産業カウンセラー協会	産業カウンセラー養成講座「産業精神保健の基礎知識」	1	80人
	福祉研修センター	介護事業雇用責任者講習「職場のメンタルヘルス」	1	50人
	富山市保健推進員連絡協議会	定例総会「子育て、親育ち～寄りそう時の覚書」	1	300人
県	石川県教育センター	カウンセラー教員養成講座「思春期の心の病気」	1	20人
	県高等学校保健会	講義「思春期の心の病気と薬物療法」	1	18人
	県社会福祉協議会	介護福祉士国家試験準備講習会「精神保健福祉」	2	80人
		ホームヘルパー養成研修「精神障害者に関する基礎知識」	1	31人
	県長寿生きがいセンター	いしかわ長寿大学「こころの健康を保つには」	2	65人
	福祉総合研修センター	精神障害者に関する基礎知識（理解と援助）	1	31人
		石川県における精神保健福祉について	1	31人
	羽咋地域センター	家族教室「ひきこもる人とその影響」	1	7人
		家族教室「ひきこもりとは」	1	9人
	珠洲地域センター	講義「うつ状態の理解と支援」	1	14人
発達障害児支援研修会「発達障害児に必要な支援と環境」		1	17人	

ウ マスコミ活用

期 日	内 容	報 道 機 関
H21. 9.18 H21. 9.29	第57回精神保健福祉普及週間関連イベントについての記事提供	新聞社2社
H21.10. 9	薬物関連問題講演会について	新聞社3社
H21.10.25	アディクションセミナーの開催について	新聞社1社
H22. 1.15	アルコール相談について	新聞社1社
H22. 3. 2	自殺予防「睡眠キャンペーン」について	新聞社2社
H22.3.24 H22.3.30	多重債務とこころの健康相談会	新聞社・タウン誌4社

エ 普及啓発資料の作成

県下の精神保健の動向やこころの健康センターの事業の紹介を目的として発行した。

	内 容	発行部数
センター だより	第72号 特集「いしかわの自殺予防」 第73号 特集「見過ごされやすい高機能自閉症スペクトラム」	各 500部
講 演 録	アルコール関連問題講演録「依存症当事者家族にできること」	500部
パ ン フ レ ッ ト	こころだってケガをすることがあるんだよ ギャンブル依存症について	2,000部 5,000部
そ の 他	睡眠キャンペーンポスター チラシ のぼり旗	1,000部 5,000部 8本

オ 普及啓発資料の貸し出し

病院や地域関係機関にビデオ、パネル等の貸し出しを行っている。平成21年度は45件あり、医療機関の利用が最も多かった。

カ ホームページの更新

アドレス <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/kokoro/top.html>

キ 障害者ふれあいフェスティバル

障害者の自立と社会参加の意欲を高め、並びに県民の障害者に対する理解と認識をより一層高めることを目的に開催される事業で、平成21年度が第14回となる。

当初、知的障害と身体障害の2障害合同形式で開催されていたものだが、平成11年度よ

り精神障害関係団体が正式に加わり、3 障害合同で開催されている。

- 日 時 平成 21 年 9 月 20 日（日） 10:00 ～16:00
 場 所 石川県産業展示館 4 号館
 参加者 約 12,000 人
 内 容 （精神障害者関係分）
 ステージコーナー（詩の朗読）、展示コーナー、スポーツ・ゲーム・手作り教室コーナー、販売・屋台模擬店コーナー、体験コーナー、相談コーナー

ク 第 57 回精神保健福祉普及運動パネル展、ミニコンサート

期 日	内 容	場 所
9 月 10 日 ～16 日	自殺予防週間キャンペーン ・自殺予防パネル、ポスター、パンフレット、のぼり旗の設置 ・等の配布	県庁 19 階 交流コーナー
10 月 5 日 ～11 日	第 57 回精神保健福祉普及運動パネル展示 ・うつ病、依存症についてのパネル展示 ・うつ病、依存症のチェックリスト等の配布 ・精神保健福祉普及運動ミニビデオコンサート	

（４）調査研究

研 究 名	研 究 者	報 告 書
思春期ひきこもりにおける精神医学的障害の実態把握に関する研究	近藤 直司 （山梨県立精神保健福祉センター） 宮沢 久江 （山梨県中央児童相談所） 境 泉洋 （徳島大学総合科学部人間社会学科） 清田 吉和 （石川県こころの健康センター） 北端 裕司 （和歌山県精神保健福祉センター） 黒田 安計 （さいたま市こころの健康センター） 黒澤 美枝 （岩手県精神保健福祉センター） 宮田 量治 （山梨県立北病院）	厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究 平成 21 年度総括・分担研究報告書 平成 19－21 年度総合研究報告書

(5) 精神保健福祉相談

平成 21 年度の相談（電話相談と来所相談を合わせたもの）の概要は表 1、表 2 の通りである。相談延件数は、電話相談 5,097 件、来所相談 1,181 件であり、前年度の電話相談 4,353 件、来所相談 1,177 件に比べともに増加している。来所相談の実件数は 289 件で前年度の 281 件と比べ増加している。実件数のうち新来件数は 209 件であり、前年度からの繰り越しまたは再来相談件数は 80 件であった（表 1）。

相談区分では、その他を除くと、電話相談では、こころの健康づくりが 2,341 件で最も多く次いでうつ・うつ状態が 670 件となっている。来所相談では、思春期が 320 件と最も多く次いで社会復帰が 271 件の順になっている。再掲でひきこもりは 392 件で前年度の 325 件と比べ増加している。（表 2）。

	男	女	合計
電 話 相 談	2,252	2,845	5,097
来 所 相 談	787	394	1,181
計	3,039	3,239	6,278

件数は延件数

	男	女	合計	
新 来	新 来 相 談	117	92	209
	繰り越し・再来	50	30	80
継 続	620	272	892	

件数は延件数

表2 相談区分別相談件数

		平成21年度		平成20年度
		電話相談	来所相談（新来）	来所相談（新来）
老人精神保健		69	10 (10)	1 (1)
社会復帰		185	271 (26)	286 (15)
アルコール		30	5 (2)	13 (9)
薬物		10	2 (2)	2 (1)
思春期※		381	320 (62)	317 (54)
心の健康づくり		2,340	214 (23)	223 (36)
うつ・うつ状態		670	141 (28)	
その他		1,412	218 (56)	335 (81)
再掲	ひきこもり	162	392 (29)	325 (29)
	自殺	62	15 (3)	29 (10)
計		5,097	1,181 (209)	1,177 (197)

件数は延件数 ()は実件数

※原則として13歳～24歳の精神発達の途上にある者およびその家族からの心の悩み等の思春期精神保健に関する相談を指す。

ア 電話相談

電話相談は、通常の業務時間内に、事務所の電話で受ける相談のほか、専用電話相談の「こころの相談ダイヤル」で受ける相談を合わせたものである。

平成21年度の相談件数は(延件数)は5,097件であり、性別で見ると、男性2,252件、女性2,845件と、女性の方が593件多い(表1)。

年齢区分別(不明を除く)では、〈40～49歳〉が1,786件(35.0%)と最も多く、次いで〈30～39歳〉が813件(16.0%)を占めている(表3、図1)。

相談内容別では「精神障害者の生活上の問題」が1,681件(33.0%)と最も多く、次いで「家庭内の問題」718件(14.1%)「日常生活に関する心配・不安」501件(9.8%)、の順となっている(表4、図2)。

処遇としては、電話相談では「傾聴・助言」が4,698件(92.1%)と最も多く、次いで「他機関紹介」188件(3.7%)、「こころの健康センター(来所相談)へ」が167件(3.3%)、となっている(表7)。

イ 来所相談

来所相談は原則として予約制をとっているが、本人または家族・関係者が直接窓口に来所した場合も対応している。

新来相談の来所経路を見てみると、男女とも電話帳や口コミにより「直接」来所してくる場合が 118 件と一番多い。次いで「医療機関（精神科）」29 件、「施設・学校」18 件の順になっている（表 5）。

相談は、通常の業務の中で相談課職員が対応している。必要に応じ所長または嘱託医（精神科医）の診察を実施している。

平成 21 年度の相談件数(延件数)は 1,181 件と平成 20 年の 1,177 件よりわずかに多い。

年齢区分別では〈30～39 歳〉が 316 件（26.8%）と最も多く、次いで〈25～29 歳〉278 件（23.5%）、〈22～24 歳〉165 件（14.0%）となっており、20 代までの相談が 686 件（58.0%）を占めている（表 3、図 1）。

相談内容別では、「ひきこもり」が 300 件（25.4%）と最も多く、次いで「社会復帰・デイケアの問題」204 件（17.3%）、「性格・行動上の悩み」168 件（14.2%）と続いている(表 4、図 2)。

診断分類別件数では、医師の診察を必要としなかったり、診断保留の状態で継続的な関わりを続けている相談が 532 件（45.0%）と最も多い。診断別では統合失調症が 279 件（23.6%）、気分障害（そううつ病）が 142 件（12.0%）、神経症 110 件（9.3%）となっている(表 6)。

処遇としては、「継続面接」が 739 件と最も多く、次いで「助言」の 198 件となっている。相談後、他機関に紹介した件数は 24 件で、主な紹介先として「医療機関（主に精神科）」が 19 件と最も多い(表 8)。

表3 電話相談・来所相談の年齢別状況

年齢区分	相談区分				合計	
	電話相談		来所相談			
	件数	%	件数	%	件数	%
0～5歳	11件	0.2%	件	%	11件	0.2%
6～12歳	32	0.6	10	0.8	42	0.7
13～15歳	66	1.3	20	1.7	86	1.4
16～18歳	148	2.9	108	9.1	256	4.1
19～24歳	213	4.2	270	22.9	483	7.7
25～29歳	143	2.8	278	23.5	421	6.7
30～39歳	813	16.0	316	26.8	1,129	18.0
40～49歳	1,786	35.0	132	11.2	1,918	30.5
50～64歳	332	6.5	29	2.5	361	5.7
65歳以上	67	1.3	11	0.9	78	1.2
不明	1,486	29.2	7	0.6	1,493	23.8
合計	5,097	100.0	1,181	100.0	6,278	100.0

件数は延件数

図1 電話相談・来所相談の年齢別状況

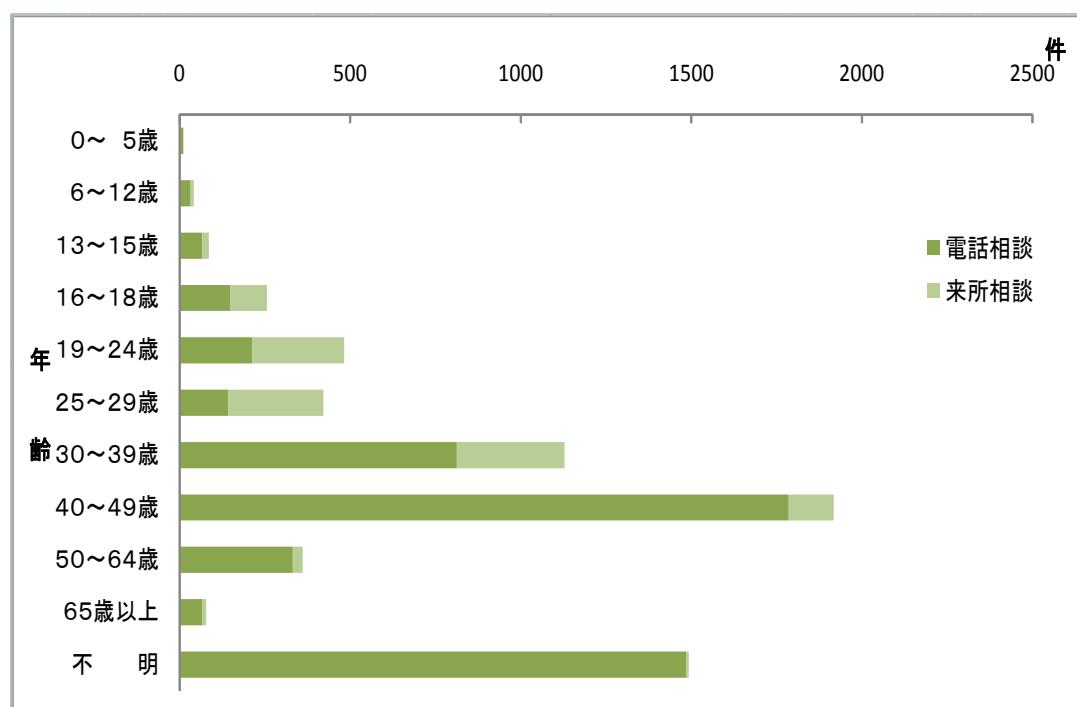


表4 電話相談・来所相談の相談内容別状況

相 談 内 容	相 談 区 分				合 計	
	電 話 相 談		来 所 相 談		件数	%
	件数	%	件数 (実)	%		
発 達 上 の 問 題	24 件	0.5 %	17 件 (5)	1.4 %	41 件	0.7 %
不 登 校 ・ 学 校 不 適 応	131	2.6	67 (16)	5.7	198	3.2
ひ き こ も り	154	3.0	300 (23)	25.4	454	7.2
非 行 ・ 反 社 会 的 問 題	6	0.1	4 (1)	0.3	10	0.2
暴 力	37	0.7	22 (9)	1.9	59	0.9
家 庭 内 の 問 題	718	14.1	95 (13)	8.0	813	12.9
出 産 ・ 育 児 上 の 悩 み	18	0.4			18	0.3
更 年 期 の 悩 み	4	0.1			4	0.1
高 齢 者 の 問 題	51	1.0	5 (5)	0.4	56	0.9
仕 事 ・ 職 場 の 悩 み	373	7.3	53 (19)	4.5	426	6.8
身 体 上 の 悩 み	76	1.5	1 (1)	0.1	77	1.2
摂 食 障 害	29	0.6	13 (3)	1.1	42	0.7
性 格 ・ 行 動 上 の 悩 み	221	4.3	168 (22)	14.2	389	6.2
対 人 関 係 上 の 悩 み	311	6.1	28 (14)	2.4	339	5.4
ア ル コ ー ル 問 題	30	0.6	5 (2)	0.4	35	0.6
薬 物 問 題	12	0.2	2 (2)	0.2	14	0.2
ア ル コ ー ル ・ 薬 物 以 外 の 依 存	24	0.5	6 (2)	0.5	30	0.5
性 に つ い て の 悩 み	62	1.2	1 (1)	0.1	63	1.0
日 常 生 活 に 関 す る 心 配 ・ 不 安	501	9.8			501	8.0
神 経 症	21	0.4	5 (2)	0.4	26	0.4
精 神 障 害 へ の 不 安	111	2.2	16 (12)	1.3	127	2.0
病 気 の 治 療 上 の 問 題	278	5.5	40 (24)	3.4	318	5.1
社 会 復 帰 ・ D . C の 問 題	68	1.3	204 (17)	17.3	272	4.3
精 神 障 害 者 へ の 対 応	61	1.2	15 (5)	1.3	76	1.2
精 神 障 害 者 の 生 活 上 の 問 題	1,681	33.0	111 (10)	9.4	1,792	28.5
情 報 提 供	52	1.0			52	0.8
そ の 他	43	0.8	3 (1)	0.3	46	0.7
合 計	5,097	100.0	1,181 (209)	100.0	6,278	100.0

件数は延件数(実件数)

図2 電話相談・来所相談の内容別相談状況

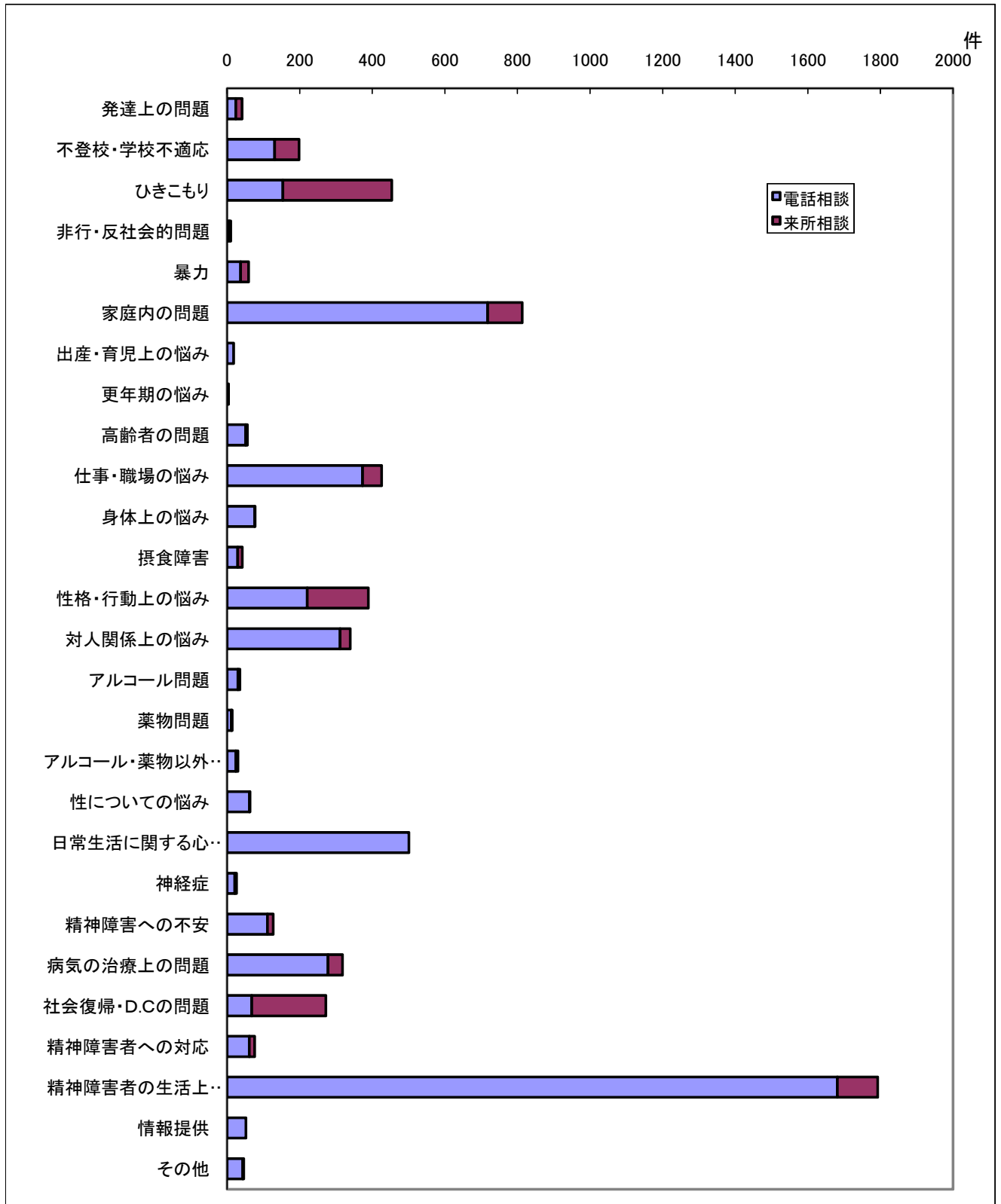


表5 来所経路別相談件数（新来相談について）

経路	性別		合計
	男	女	
直接	75 件	43 件	118 件
医療機関（精神科）	8	21	29
医療機関（一般科）	2	4	6
県保健福祉センター・金沢市福祉健康センター （保健所）	3	0	3
児童相談所	0	0	0
県保健福祉センター・金沢市福祉健康センター （福祉事務所）	1	1	2
児童・民生委員	0	0	0
施設・学校	7	11	18
ハローワーク （職業安定所・ジョブカフェ石川）	6	3	9
警察	1	0	1
県庁・市町役場	1	1	2
その他の相談機関	3	1	4
こころの相談ダイヤル	2	1	3
その他の電話相談	1	1	2
センター事務所電話相談	1	1	2
その他	6	4	10
合計	117	92	209

件数は延件数

表6 診断別相談件数

診断名		来所者区分		新 来 相 談 件数	繰り越し・再来 件数	継 続 件数	合 計	
		件数	%				件数	%
器 質 性 精 神 障 害	神 経 梅 毒	0	0	0	0	0	0	0.0
	脳 血 管 性 障 害	1	0	0	0	1	0.1	
	初老期及び老年期認知症	0	0	0	0	0	0.0	
	そ の 他	0	1	1	1	2	0.2	
症 状 性 神 経 病		0	0	0	0	0	0.0	
精 神 障 害	ア ル コ ー ル 症	1	0	2	2	3	0.3	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0.0	
統 合 失 調 症		20	24	235	279	23.6		
双 極 性 感 情 障 害		31	11	100	142	12.0		
非 定 型 精 神 病		0	0	0	0	0.0		
妄 想 状 態		0	0	0	0	0.0		
反 応 性 精 神 病		0	0	0	0	0.0		
そ の 他 分 類 困 難 な 精 神 病		0	0	0	0	0.0		
神 経 症		12	7	91	110	9.3		
心 身 症		1	1	2	4	0.3		
性的機能障害及び性欲異常		0	0	0	0	0.0		
児童期神経性習癖と行動異常		0	2	7	9	0.8		
不登校・家庭内暴力		0	0	0	0	0.0		
小 児 自 閉 症		2	1	40	43	3.6		
性 格 異 常		1	0	2	3	0.3		
て ん か ん		1	1	26	28	2.4		
精 神 遅 滞		1	0	6	7	0.6		
そ の 他		5	0	10	15	1.3		
未 診 断 ・ 診 断 保 留		131	32	369	532	45.0		
異 常 な し		2	0	1	3	0.3		
合 計		209	80	892	1,181	100.0		

件数は延件数

表7 処遇別相談件数(電話相談)

区 分	傾聴・助言	センター (来所相談) へ紹介	他機関紹介	その他	再連絡	合 計
件 数	4,698件	167件	188件	9件	35件	5,097件
%	92.1%	3.3%	3.7%	0.2%	0.7%	100%

件数は延件数

表8 処遇別相談件数(来所相談)

来所者区分		新 来 相 談	繰り越し・再来	継 続	合 計
助 言		129 ^件	23 ^件	46 ^件	198 ^件
診 察		20	5	23	48
特殊 援助	継続面接(又は治療)	52	37	650	739
	デ イ ・ ケ ア	5	15	171	191
	そ の 他	3	0	2	5
合 計		209	80	892	1,181
(再掲)診断書発行		0	0	1	1
(再掲) 紹介	医 療 機 関	11	3	5	19
	保 健 所	1	1	0	2
	福 祉 関 係	0	0	0	0
	教 育 機 関	0	0	0	0
	そ の 他	0	0	1	1

件数は延件数

(6) 特定相談指導事業

ア アルコール関連問題相談・薬物関連問題相談事業

(ア) 相談状況

表1 相談状況

	来 所 相 談			電 話 相 談		
	総 数	男	女	総 数	男	女
アルコール問題	5 (2)	5 (2)	0 (0)	30	10	20
薬 物 問 題	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12	4	8
アルコール ・薬物以外	6 (3)	5 (2)	1 (1)	24	10	14
計	13 (7)	12 (6)	1 (1)	66	24	42

件数は延人数（実人数）

(イ) アルコール関連問題研修会・薬物関連問題相談担当者研修会

* 研修内容については P13 参照

イ 思春期相談指導事業

(ア) 相談状況

表2 思春期相談件数（相談対象者が13歳～24歳の相談を指す）

	男	女	合 計
電 話 相 談	202 件	225 件	427 件
来 所 相 談	256	142	398
合 計	458	367	825

件数は延件数

(イ) 思春期精神保健関係機関研修会

* 研修内容については P13 参照

(7) 組織育成

平成 21 年度に、当センターが直接にかかわりをもった組織は、アルコール自助グループ(石川県断酒連合会、A・A)、精神障害者家族会(石川県精神障害者家族会連合会)、石川県精神保健福祉協会、石川県精神障害者支援事業所連絡協議会、石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会の各団体である。

それぞれに対するかかわりの回数、参加人数は下記の表 1 のとおりである。

表 1 協力組織へのかかわり

対 象	回 数	参加人数
石 川 県 断 酒 連 合 会	6	146
A ・ A グ ル ー プ 等	8	233
小 計	14	379
石 川 県 精 神 障 害 者 家 族 会 連 合 会	44	558
石 川 県 精 神 保 健 福 祉 協 会	29	1,474
石 川 県 精 神 障 害 者 支 援 事 業 所 連 絡 協 議 会	9	185
石 川 県 メ ン タ ル ヘ ル ス ボ ラ ン テ ィ ア 連 絡 協 議 会	9	124
小 計	91	2,298
合 計	105	2,677

ア アルコール自助グループ

(ア) 石川県断酒連合会

石川県断酒連合会は、昭和 44 年「北陸断酒新生会」として結成された。その後、昭和 58 年「石川県断酒連合会」に名称が変更された。昭和 56 年以降当センターは例会の会場を月 1 回提供し、職員が参加してきた。ここ数年例会は独自で開催されるようになり、日頃の情報交換、一泊研修会、北陸ブロック研修会等を通して活動支援を行なった。

(イ) AA 等

石川県では昭和 63 年に AA 金沢グループが誕生し、現在は 6 グループが活動している。職員が日頃の情報交換や、オープンスピーカーズミーティングやオープンステップミーティングに参加することで、活動支援を行なっている。

イ 精神障害者家族会

(ア) 石川県精神障害者家族会連合会（石家連）

石川県精神障害者家族会連合会は昭和 48 年 6 月頃より石川県内の保健所を単位とした地域家族会で結成され、10 家族会（会員数約 400 人）をもって昭和 49 年 2 月に連合会として発足した。その後、地域家族会の統合があつたりして平成 21 年度現在では 13 地域家族会と 2 病院家族会、1 施設家族会で連合会を組織し、会員は 273 名である。

表 2 石家連へのかかわり

内 容	回 数	参加人数
総会と講演会	2	126
精神障害者家族会と病院長との懇談会 精神保健福祉協会との共催	1	105
行政との懇談会	1	36
常務理事会、理事会等	20	212
研修会等	20	79

(イ) 地域家族会

地域家族会の育成援助は保健所が中心になってかかわりをもっている。

ウ 石川県精神障害者支援事業所連絡会

平成 5 年度から県内の精神障害者小規模作業所指導員の研修の場として、家族会県連のなかに作業所部会を設けて、作業所運営の検討、アンケート調査の実施、パンフレットの作成等の活動を行ってきた。

平成 7 年度作業所数が大幅に増加し、従事する指導員数も多くなってきたことから、平成 8 年 5 月に県内の小規模作業所で組織する石川県精神障害者小規模作業所連絡協議会が発足し、家族会から分離して月 1 回の例会や、役員会、勉強会等の活動を行っている。現在、県内の精神障害者支援事業所（16 ケ所）が参加している。また、作品展を県庁展望ロビーにおいて開催、石川県障害者ふれあいフェスティバルでは、各事業所の製品販売を行った。当事者への支援力向上を図るため、研修を行っている。

エ 石川県精神保健福祉協会

昭和 35 年 10 月に石川県精神衛生協会が結成され、平成 3 年 6 月、名称を石川県精神保健協会、平成 10 年 6 月に石川県精神保健福祉協会と改めている。平成 21 年度会員は、個人会員 302 名、団体会員 35 団体、特別会員 13 病院となっている。

表3 精神保健福祉協会へのかかわり

期 日	内 容	対 象	人 数
21. 5. 15	表彰審査委員会	委員	4人
21. 5. 15～ 22. 3. 24	心の健康づくり講師派遣事業	地域、学校、職域等の団体	17回 706人
21. 5. 29	理 事 会	理事、監事等	11人
21. 3. 12	”	”	15人
21. 6. 13	総 会	会員、関係者等	70人
”	精神保健講演会	会員、一般	106人
21. 11. 12	精神障害者家族会と病院長等との懇談会	病院長等、家族会、行政、保健所	105人
21. 7. 5	精神科看護職員等研修会	病院関係者	182人
21. 10. 23	地域精神保健専門委員会	関係機関職員、一般	125人
21. 11. 4	精神保健福祉研修会	関係機関職員、一般	109人
22. 2. 14	精神保健福祉研究会	会員、一般	33人
22. 3. 12	会報編集委員会	委員	3人
21. 10. 31	教育と精神保健専門委員会	教育関係者	5人

計 29回 1,474人

オ 石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会

昭和 63 年に当センターでメンタルヘルスポランティア講座が開催された。引き続き保健所が中心となって地域住民に対し、継続的に教育が行われており、ボランティアを志す人達がグループを作って積極的な活動がなされるようになった。平成 11 年に連絡会が開催され、平成 13 年度に「石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会」が発足。平成 21 年度には県内のグループ数は 9 となっている。

(8) 在宅精神障害者社会復帰促進事業（田園クラブ）

目的：在宅精神障害者の社会参加を促進するため、話し合い、スポーツ、レクリエーション、手工芸などの活動を通じて、対人関係の改善、社会性や生活技能の向上を図ることを目的にグループ活動を行う。

ア 実施状況

表1 田園クラブ実施状況

実施回数	実施頻度	実人数	延人数	一回あたりの参加人数
99回	週2回	21人（男14人） （女7人）	949人	9.6人

表2 年齢別参加者状況

20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～45歳	計
—	6人	11人	4人	21人

表3 来所経路別参加者数

直接	公的病院からの紹介	私立病院からの紹介	学校からの紹介
4人	4人	12人	1人

表4 保健所管内別参加者数

石川中央	河北地域センター	金沢駅西	金沢泉野	金沢元町
2人	3人	7人	6人	3人

表5 参加者の他機関利用状況

就労 アルバイト	地域活動支援センター 就労移行支援B型	病院デイケア	社会適応訓練	利用なし
5人	5人	2人	0人	7人

表6 プログラム別実績

内 容	作 業 療 法						レクリエーション療法						集 団 活 動						個 別 相 談	合 計	
	ク ラ フ ト	料 理 ・ お 菓 子 作 り	コ ラ ー ジ ュ	パ ソ コ ン ・ 麻 雀 教 室	そ の 他	小 計	ス ポ ー ツ	D V D ・ カ ラ オ ケ	マ イ フ ェ バ リ ユ ツ ト ミ ュ ー ジ ッ ク	ゲ ー ム	そ の 他	小 計	話 し 合 い	所 外 活 動	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 講 座	知 り た い こ と セ ミ ナ ー	施 設 見 学	そ の 他			小 計
単 位 参 加 者	24	10	3	5	2	44	31	11	7	7	3	59	15	33	12	4	6	2	72	12	187
	185	78	23	40	17	343	251	98	64	63	28	504	142	265	80	33	50	15	585	132	1564

イ 家族へのかかわり

平成 21 年度は全体の家族教室を 3 回実施。教室後に担当スタッフと家族による個別懇談会を行った。

月 日	内容及び担当者	参加者数
平成 21 年 6 月 4 日(木) 13:30~16:00	・ DVD 視聴と話し合い DVD 「回復力を高める接し方」	10 人
平成 21 年 9 月 3 日(木) 13:30~16:00	・ DVD 視聴と話し合い DVD 「ドラマで学ぶ回復力を高める会話」	11 人
平成 22 年 12 月 22 日(火) 13:30~16:00	・ 話し合い 講話 「回復力を高める家族のコミュニケーション」 講師 ころの健康センター 中宮 久美子	11 人

(9) 青年期心の健康づくり推進事業

青年期の、いじめや家庭内暴力、不登校、ひきこもりなどが社会問題化してきている中で、平成13年4月から、県全体の取り組みとして当該事業が始められた。

当該事業は、青年期の問題のうち主にひきこもりや不登校を対象とし、総合的な対応を行うために、地域の保健所や関係機関と連携を取りながら、以下の事業を行った。

ア 個別相談

特定相談日を設けることなく、通常の相談業務の中で、随時相談に応じる形を取っている。

表1 ひきこもり・不登校相談件数

相談種別	件数(延)
電話相談	161件
来所相談	392件
合計	553件

※ 相談の背景にひきこもり状態があるものを含む

イ ひきこもり家族教室

対象を「概ね18歳から35歳までの『ひきこもり』問題で悩む県内の家族」とした。

参加者は5回通して参加できることを原則に、事前面接により得た情報を検討し参加者を決定した。

目的：家族がひきこもりに関する正しい理解を得ることで、解決の糸口とする。

家族同士による体験の語り合い、意見交換を通じて、家族の不安・焦り・孤立感を軽減する。

家族が安心できる場の提供。

内容：1回2時間とし、タイムスケジュールに従って、最初に「参加のルール」を読み合わせ、「気分調べ」、各テーマで「話題提供（ミニ講義）」を行った後、意見交換を目的とした「家族交流会」を開催した。

表2 家族教室の内容と開催状況

第1回	話題提供 「ひきこもりとは？」 家族交流会
第2回	話題提供 「ひきこもりの心理」 家族交流会
第3回	話題提供 「家族にできること」 家族交流会
第4回	話題提供 「本人との関わりについて考える」 家族交流会
第5回	家族交流会
参加者数 (家族数)	8人 延31人 (6家族)

ウ ひきこもり家族交流会

当センターの家族教室への参加家族を対象に、引き続き家族同士が集まれる場を持つことを目的とする。定員は特に定めていない。

開催回数は年4回で、当センターを会場とし、1回の時間は2時間とした。

センターより、2～3人の職員が参加し、家族の自主的な話し合いができるような援助、必要に応じて情報提供を行った。

表3 家族交流会の内容と開催状況

回数	開催月日	参加家族数	内容
第1回	平成21年 6月 8日(月)	6家族 6人	① 気分しらべ ② 参加ルールの確認 ③ 家族同士の話し合い ④ まとめ ⑤ チェックアウトとしての感想
第2回	平成21年 8月 31日(月)	2家族 2人	
第3回	平成21年 11月 30日(月)	4家族 4人	
第4回	平成21年 3月 2日(月)	6家族 6人	

エ 思春期・青年期グループ（ひきこもり当事者グループ）

目的 ひきこもりなど対人関係で悩む人に安心して過ごせる場を提供し、対人交流を通して自信の回復と対人技術の向上を図る。

対象 原則として精神疾患や発達障害が背景にない、概ね18歳から35歳までの者

日時 月3回 13:30～15:30の2時間 年34回開催

参加者 登録者 14人（男性14人女性0人）延べ287人

定員 10名程度

内容 お菓子作り、スポーツ、ビデオ鑑賞など参加者が話し合いによって決める

職員 心理職等

オ ひきこもり訪問指導者養成講座

目的 ひきこもりに悩む人やその家族に対して、相談や訪問などを通して支援を行う「訪問支援者」を養成する。

対象者 ひきこもり支援に携わる関係機関職員。ひきこもりを経験し克服した若者や家族、及びボランティア等の内、ひきこもり支援活動に携わる意欲のある者

* 研修内容についてはP14を参照

(10) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業

平成13年10月の「DV防止法」の施行に先立ち、平成13年4月から、暴力を止めたい男性が相談出来る場所として、個別相談窓口を開設している。

ア 個別相談

表1 DV個別相談件数

		合計	面接相談	電話相談
DVに関する相談件数		48件	13件	35件
暴力抑止に関する相談件数		46件	13件(8)	33件
相談者内訳	加害男性	16件	10件(6)	6件
	加害女性	0件	0件	0件
	被害女性	25件	1件(1)	24件
	被害男性	4件	2件(1)	2件
	加害男性の家族等	1件	0件	1件
	被害女性の家族等	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件

(11) 自殺予防対策推進事業

平成10年より、自殺者数が急増しており、自殺の予防対策として自死遺族交流会とこころの緊急支援事業を実施した。

ア 自死遺族交流会

家族を自殺で亡くした方達が、苦しい気持ちを語りあったり、傾聴し、互いに支え合ったりしていく場として、平成18年11月より「自死遺族交流会」を開催している。

日時 奇数月の第1日曜日 14:00～16:00
 場所 金沢市内
 実施回数 6回
 参加人数 12人 延べ37人

イ こころの緊急支援事業

石川県こころの緊急支援事業では、県内の学校で重大な事件事故が起こった際、CRT(クライシスレスポンスチーム)を派遣し、子どもたちに「こころのケア」を行う学校を側面から支援します。

CRT派遣業務概要

目的	学校で危機的な事件事故が発生した場合、CRTを派遣することにより、二次被害の拡大防止とこころの応急処置を行う
対象	石川県内の小・中・高等学校及び特別支援学校等に所属する子ども達の多くが心に傷を受ける可能性がある事故・事件等
派遣メンバー	石川県こころの緊急支援チームに登録された専門家数名 (精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等)
支援内容	二次被害の拡大防止とこころの応急処置 ①被害評価とケアプラン策定の手助け ②教職員への助言、心理的サポート ③保護者への心理教育 ④子どもと保護者への応急対応 ⑤その他
派遣期間	3日間以内
派遣依頼方法	所轄の教育委員会または当該学校長からCRT専用回線へ電話で依頼 専用回線 080-2951-5574 *派遣要請は24時間受け付けますが、個人からの依頼には対応しません。事業の詳細に関するお問い合わせは石川県こころの健康センターまでお願いいたします。
派遣の判断基準	派遣対象となる事件・事故の規模は、表「学校危機のレベル」で中規模(レベルⅢ弱からⅣ)。ただし、同じような事例に見えても子ども達が受ける衝撃度は異なりますので、お問い合わせください。
受け入れについて	・経費の負担はありません。 ・食事など身の回りの心配はいりません。 ・専用の控え室のご用意をお願いします。

研修内容についてはP14参照。

3 支援課（発達障害支援センター）業務

(1) 発達障害児(者)及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援

発達障害児(者)に関する相談全般で、1回～数回の相談で終了する相談支援、心理機能の適正な発達を支援し、円滑な社会生活を促進するために発達障害の特性に対応して、継続的に支援する発達支援、就労に関して継続的に支援する就労支援を行っている。

表1 年齢別

年齢区分（歳）		0～3	4～6	7～12	13～15	16～18	19～	不明	合計
相談支援	実人員	26	28	53	38	29	123	46	343(12)人
	延件数	47	142	265	190	128	655	51	1,478(20)件
発達支援	実人員	2	10	25	9	13	34	0	93人
	延件数	39	194	538	246	199	982	0	2,198件

年齢区分（歳）		18歳未満	18歳以上	合計
就労支援	実人員	0	22	22人
	延件数	0	476	476件

() 内の数字は、県外居住者及び居住先不明者の合計数

表2 相談支援の主な相談内容

情報提供	家庭生活	健康・医療	教育	保育	療育	進路相談	自立支援	就労	その他	合計
190	688	224	55	11	1	12	4	51	242	1,478件

表3 相談方法

	来所	訪問	電話	その他	合計
相談支援	629	29	770	50	1,478件
発達支援	1,393	42	690	73	2,198件
就労支援	239	1	223	13	476件
合計	2,261	72	1,683	136	4,152件

その他：メール、FAX、文書等を含む

表4 相談支援の障害種別

障 害 種 別	相談支援	発達支援	就労支援	合計
自 閉 症	66	72	14	152
アスペルガー症候群	30	6	5	41
A D / H D	6	3	2	11
L D	1	0	0	1
そ の 他	35	1	1	37
不明（未診断含む）	205	11	0	216
合 計	343人	93人	22人	458人

自閉症：自閉症及び広汎性発達障害を含む

アスペルガー症候群：高機能自閉症、高機能広汎性発達障害を含む

表5 相談者

相 談 者	相談支援	発達支援	就労支援	合計
本 人	410	933	221	1,564
保 護 者 ・ 親 族	873	919	146	1,938
保 育 所 ・ 幼 稚 園	12	13	0	25
小 学 校	9	46	0	55
中 学 校	8	24	0	32
高 等 学 校	7	5	0	12
特 別 支 援 学 校	7	21	0	28
専 門 学 校 ・ 短 大 ・ 大 学	0	6	0	6
援 護 施 設 等	17	19	7	43
保 健 所	12	1	0	13
市 町 保 健 セ ン タ ー	2	9	0	11
行 政	5	33	3	41
医 療 機 関	50	61	10	121
公 共 職 業 安 定 所	0	1	11	12
障 害 者 職 業 セ ン タ ー	9	26	53	88
障 害 者 就 業 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー	3	1	13	17
児 童 相 談 所	15	25	0	40
そ の 他	39	55	12	106
合 計	1,478件	2,198件	476件	4,152件

行政：保健所、市町保健センターを除く

援護施設等：更生・授産施設、通勤寮、福祉ホーム等

表6 発達支援・就労支援の支援回数

	1～10回	11回以上	合計
発達支援（実人員）	32	61	93人
就労支援（実人員）	7	15	22人

表7 発達支援・就労支援の支援期間

	3ヶ月未満	3ヶ月～ 6ヶ月未満	6ヶ月～ 1年未満	1年以上	合計
発達支援（実人員）	0	6	12	75	93人
就労支援（実人員）	0	1	1	20	22人

（2） 精神科医による相談事業

嘱託の精神科医による相談事業を月1回実施している。相談後の支援は、センターによる継続支援や必要に応じて、医療機関等の他機関への紹介を実施している。

表1 相談事業結果

実施回数	12回	
来所実人員	24人	
来所延人員	24人	
年齢別	0～3歳	0
	4～6歳	1
	小学生	11
	中学生	3
	16～18歳	1
	19歳～	8
	合計	24
診察結果	障害なし	0
	経過観察（判定保留）	1
	自閉症	22
	アスペルガー症候群	0
	A D / H D	0
	L D	0
	知的障害	1
	その他	0
合計	24	
支援内容	センターで継続支援	24
	医療機関紹介	0
	療育施設紹介	0
	その他の機関紹介	0
	他機関で管理中	0

自閉症：自閉症及び広汎性発達障害を含む

アスペルガー症候群：高機能自閉症、高機能広汎性発達障害を含む

(3) 青年期グループ活動

平成 17 年 10 月より、毎週木曜午後 2 時から 4 時まで、青年期を対象としてグループ活動を実施している。

表 1 活動状況

実施回数	実人員	延人員	内 容
48 回	12 人	167 人	SST(対人マナー、社会見学、ストレス解消法、調理実習等)

(4) 親のつどい

平成 19 年 10 月より、第 2 火曜午後 1 時半から 3 時半まで、青年期の保護者を対象として実施している。

平成 21 年 12 月より、第 3 水曜午前 10 時から 12 時まで、学齢期の保護者を対象として実施している。

表 1 実施状況

	実施回数	実人員 (家族)	延人員	内 容
青年期	12 回	15 組	60 人	ピアカウンセリング、話し合い、学習会など
学齢期	4 回	8 組	18 人	ピアカウンセリング、話し合いなど

(5) 関係機関等との調整会議

発達障害児（者）支援のネットワークの構築を目的とした会議を開催している。

表 1 開催状況

内容	発達障害 全般	療育	医療	教育	保健	福祉
回数	1	1	1	5	1	0

内容	就労	自立支援	その他	合計
回数	7	15	1	32 回

(6) 機関コンサルテーション

関係機関に対する障害児（者）への関わり方等についての助言を実施している。

表1 対象機関及び支援内容

		実支援施設数	延支援件数
対象機関	小 学 校	1	1
	中 学 校	3	10
	高 等 学 校	1	1
	特 別 支 援 学 校	1	1
	専 門 学 校 ・ 大 学	1	1
	放 課 後 児 童 ク ラ ブ	1	1
	市 教 育 研 究 所	1	5
	地 域 療 育 等 支 援 事 業 所	2	3
	合 計	11 ヵ所	23 件
支援内容	障 害 特 性 の 理 解		7
	指 導 ・ 対 応 方 法 の 助 言		5
	心 理 査 定		0
	事 例 検 討		5
	研 修 会		0
	そ の 他		6
	合 計		23 件

(7) 個別支援のための調整会議

関係機関による会議を開催し、障害児（者）に関して、共通認識を図り、よりよい支援を検討している。

表1 年齢別

	0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳以上	合計
実人員	10	12	5	4	15	46人
延件数	11	14	10	4	22	61件

表2 障害種別

障害種別	実支援人員
自閉症	25
アスペルガー症候群	7
A D / H D	0
L D	0
その他	1
不明（未診断含む）	13
合計	46人

自閉症：自閉症及び広汎性発達障害を含む

アスペルガー症候群：高機能自閉症、高機能広汎性発達障害を含む

表3 会議テーマ

内容	開催件数
家庭生活	6
健康・医療	0
教育	34
保育	0
療育支援	0
進路相談	3
自立支援	2
就労支援	16
その他	0
合計	61回

(8) 普及啓発及び研修

発達障害児（者）の理解及び支援を積極的に進めるため、一般を対象とした普及啓発及び関係機関の職員を対象とした研修会を実施している。

また、関係機関からの講演依頼について、講師を派遣している。

表1 公開講演会及び研修会開催状況

日時	会場	内容	講師	対象及び人数
平成21年 6月30日	石川県立 中央病院 健康教育館	発達障害支援センター研修会Ⅰ 「困り感を持つ子とのかかわり ～事例からみえてきたもの～」	日本ポーターズ協会 石川湖南支部 小坂正栄	放課後児童 クラブ指導員等 116人
平成21年 6月30日	石川県立 中央病院 健康教育館	発達障害支援センター研修会Ⅱ 「困り感を持つ子とのかかわり ～事例からみえてきたもの～」	日本ポーターズ協会 石川湖南支部 小坂正栄	保育士、 幼稚園教諭等 104人
平成21年 8月31日	地場産業 振興センター	公開講演会 「我々支援者に求められるもの ～発達障害の理解と対応～」	立正大学 心理学部教授 中田洋二郎	保健師、保育 士、心理士、相 談員、一般等 235人
平成21年 11月19日	石川県立 中央病院 健康教育館	就労支援研修会 「当事者(家族)が 求める就労支援」	NPO法人 ジョブコーチ・ ネットワーク事務局 角田みすず	就労支援機関 職員等 48人
平成21年 11月20日	石川県立 中央病院 健康教育館	保護者のための 就労支援セミナー 「はたらく大人にするために ～家庭で何を育てるか～」	NPO法人 ジョブコーチ・ ネットワーク事務局 角田みすず	保護者等 77人
平成21年 11月20日	こころの 健康センター	保護者のための 就労支援セミナー 情報交換会	NPO法人 ジョブコーチ・ ネットワーク事務局 角田みすず	保護者 13人
平成21年 12月9日	こころの 健康センター	保護者のための 就労支援学習会 「発達障害を持つ人の 就労支援の実際」	小松公共職業安定所 佐々木利弘 こまつ障害者就業・ 生活支援センター 能勢三寛 石川障害者職業センター 山本健夫 石川県発達障害支援センター 酒井伸吾	保護者等 28人

表2 講師を派遣した講演会及び研修会開催状況

日時	会場	内容	対象及び人数
平成21年 5月28日	当所	当所見学、講演	金沢産業技術専門校職員 4人
平成21年 6月8日	志賀中学校	特別支援教育校内研修会	教諭、教育実習生 21人
平成21年 6月11日	こころの 健康センター	石川県精神障害者支援事業所 連絡会研修会	一般 20人
平成21年 6月25日	富樫教育プラザ	コープいしかわ学習会	一般 60人
平成21年 7月8日	河北台中学校	校内研修会	教諭 3人
平成21年 7月23日	明成小学校	特別支援教育校内研修会	教諭、保護者 27人
平成21年 8月13日	福祉総合 研修センター	平成21年度知的障害者 居宅介護従業者資格取得研修	知的障害者 9人
平成21年 8月20日	福祉総合 研修センター	平成21年度知的障害者 居宅介護従業者資格取得研修	知的障害者 9人
平成21年 9月9日	石川県 教育センター	平成21年度石川県教育センター研修講座 高等学校特別支援コーディネーター研修会	公立高等学校 支援コーディネーター 61人
平成21年 9月14日	こころの 健康センター	河北郡市少年補導員連絡会 視察研修会	河北郡市少年補導員、 津幡警察署員 17人
平成21年 9月16日	福祉総合 研修センター	平成21年度知的障害者居宅介護 従業者資格取得研修 修了式	知的障害者 9人
平成21年 9月30日	こころの 健康センター	石川県立保育専門学校専攻科 研修	石川県立 保育専門学校生徒 7人
平成21年 10月14日	金沢産業 技術専門校	石川県立金沢産業技術専門校 ワークサポート科 講義	発達障害者訓練生、職員 10人
平成21年 10月14日	こころの 健康センター	小松市少年補導員連絡協議会 秋季研修会	小松市少年補導員、 小松警察署生活安全課員 32人
平成21年 10月27日	橘小学校	川北町橘小学校 教育講演会	保護者 75人

平成21年 12月8日	保育専門学園	講義 家族援助論 「発達障害児の保護者への支援」	保育専門学園生 56人
平成21年 12月9日	北陽小学校	事例検討会	教諭 25人
平成22年 1月26日	瑞穂小学校	羽咋市教育研究会 特別支援教育部会研修会	羽咋市内 特別支援教育担当教諭 13人

III 資料

1 保健所の精神保健福祉活動（平成 21 年度）

精神保健福祉相談・訪問状況

内容別相談〈複数選択〉（電話・来所・訪問）

保健所	区分	老人精神 保健	社会復帰	アルコー ル	薬物	思春期	心の健康 づくり	その他	合計(延)
南加賀保 健福祉セ ンター	電話	16	251	46	14	35	86	325	773
	来所(実110)	6	156	23	4	21	38	59	307
	訪問(実39)	0	63	13	12	1	14	50	153
加賀地域 センター	電話	22	65	8	2	5	77	2	181
	来所(実35)	7	14	8	0	3	51	0	83
	訪問(実12)	8	17	1	0	0	16	0	42
石川中央 保健福祉 センター	電話	11	23	2	0	11	43	122	212
	来所(実103)	7	28	4	0	19	25	59	142
	訪問(実27)	0	25	0	0	0	8	20	53
河北地域 センター	電話	516	0	0	0	1	151	13	681
	来所(実27)	1	38	0	0	0	7	3	49
	訪問(実25)	0	42	0	0	0	0	15	57
能登中部 保健福祉	電話	55	246	24	0	16	61	37	439
	来所(実72)	10	66	3	0	26	44	8	157
	訪問(実31)	2	131	5	0	1	2	1	147
羽咋地域 センター	電話	8	176	4	0	5	1	99	293
	来所(実38)	4	11	1	0	15	2	35	68
	訪問(実16)	4	14	1	0	0	0	16	35
能登北部 保健福祉	電話	59	762	25	3	92	44	28	1,013
	来所(実77)	7	80	7	1	33	17	6	151
	訪問(実87)	23	187	6	0	17	16	5	254
珠洲地域 センター	電話	18	115	2	0	8	0	1	144
	来所(実32)	8	26	1	0	12	5	0	52
	訪問(実11)	3	9	1	0	2	0	0	15
泉野福祉 健康セン ター	電話	26	1,168	42	2	18	156	0	1,412
	来所(実184)	5	188	8	0	13	149	2	365
	訪問(実89)	1	170	16	0	1	8	0	196
元町福祉 健康セン ター	電話	3	551	22	4	0	50	15	645
	来所(実85)	7	104	3	1	0	16	3	134
	訪問(実45)	0	77	2	1	0	2	0	82
駅西福祉 健康セン ター	電話	43	664	39	3	5	121	6	881
	来所(実107)	15	113	20	0	1	26	4	179
	訪問(実64)	8	121	3	0	0	14	0	146

2 その他の資料

こころの健康センター貸出しビデオテープ・DVD 一覧

ビデオテープ (VHS 方式)・DVD

(平成 21 年 12 月 現在)

分類	番号	題名	上映時間	対象者	内容
児	2101	SOSから笑顔へ ～いじめ・登校拒否から自立を待つ～	60分	小・中・高 校生・一般	登校拒否の生徒を立ち直らせた事例の紹介。
	2102～ 2106	子そだてたまご (1)～(5)	各60分	一般	0才～小学生の子どもについて、親子・育児・あそび・食事 などテーマ別に描いた家庭教育ビデオ。
	2107	よい子のため息S・O・S	30分	母親	子供もため息をついている。(悩んでいる)
	2108	いじめ	30分	中高生	先生は動いてくれなかった。先生は信じてくれない。仲間 はずれが一番つらい。
	2109	あなたの心、元気ですか！	20分	一般	高校生及び、心の病を理解し、どのように対処するか工夫 を考え、学ぶことを目的としたビデオ。
	2110	夢はお母さんと二人っきり	32分	母親	幼児は、妹や弟が出来ると母親を独占したいと思うようになる。
	2111	子育てに自信をなくしているあなたへ	15分	育児者	育児の悩みの解消策について。
こ こ ろ の 健 康	2112	子ども虐待防止対策ビデオ 「MCGとは何か」	15分	母親	MCGとは東京都世田谷区の取り組みで、母と子の関係を 考える会(グループミーティング)のこと。
	2201	職場ストレスと健康 第1集 ストレスとは	16分	一般	ストレスとは、人間の心と体に対して外部からの社会的・精 神的・肉体的刺激が加わり、心身にマイナスが生じた状態。
	2202	職場ストレスと健康 第2集 職場ストレス	18分	一般	複雑な人間関係や過剰な残業により、神経症やうつ状態に 陥る人が増えた。
	2203	職場ストレスと健康 第3集 職場ストレスと健康防衛	19分	一般	ストレス症候群に対するには、ストレスの防衛を考える。
	2204	小此木敬吾による症例分析	30分	一般	慶應義塾大学医学部精神神経科助教授 小此木敬吾氏の講演。 (メンタルヘルスを各職場、企業の中で実践する方法について)
	2205	セルフコントロール医学への道	58分	一般	東大医学部部分院心療内科長 石川 中氏の講演。(患者自身 が、病理について熟知し、自分で自分の心身をセルフコント ロール出来るようにする)
	2206	うつの時代	30分	一般	日本精神病院協会会長 斉藤茂太氏のうつに関する講演会。
	2208	現代人のメンタルヘルス (心の病気)	29分	一般	神経症・心身症・精神分裂病・うつ病・そう病・アルコール 依存症などが一般的。
	2209	管理・監督者のための ストレスマネジメント	40分	管理者	管理者として部下のストレス対策は、どうあるべきか。
	2210	中・高年期の精神保健	23分	一般	65歳以上の老人の2割程度が、何らかの心の病気を持って いる。老人の心の病気を説明。
	2211	その場でできるやさしい疲労回復法 健康ストレッチング	20分	一般	デスクワークの人達のために、ストレッチングを中心とし て様々な疲労回復方法を教示する。
	2212	災害と心のケア	42分	一般	災害等の非常時に遭遇した時に、心的障害に対してどのよ うに対処すべきか。
	2213	開くーかける一つなぐー精神保健ボ ランティア～いっしょにいこうよ	39分	一般	いろいろな精神保健ボランティアを紹介すると共にその大 切さを訴える。
	2214	開くーかける一つなぐー精神保健ボ ランティア～スタンドバイミー～もっ とちかくに～	43分	一般	作業所等にボランティアが集う。
2215	おかえり	99分	一般	新婚の妻が幻覚妄想状態になったが、治療を拒む妻の要求 を受け入れた夫が一晩の入院で退院させることになる映画。	
2216	小さなほほえみのために ～乳幼児突然 死症候群 SIDSから赤ちゃんを守る～	5分	一般	2千人に1人の割合で死亡者が発生。眠っている間に死ぬ。 1歳未満の赤ちゃん。	
2217-1	企業戦士のメンタルヘルス ①五月病症候群	20分	一般	五月病は、学生は受験後、新社会人は社内研修が終わった後 等次の環境にうまく順応出来ない人(まじめな人、過保護の 人、交際相手の少ない人等)が危ない。	
2217-2	企業戦士のメンタルヘルス ②入社拒否症候群	20分	一般	ア心身症 イ軽症うつ症 ウ無気力症 エずる休み型に分 類され、ア及びイのタイプが断然多い。	
2217-3	企業戦士のメンタルヘルス ③燃えつき症候群	20分	一般	無気力になる。仕事熱心、有能な人、几帳面な人、ゆとり や融通性に欠ける人が危ない。	

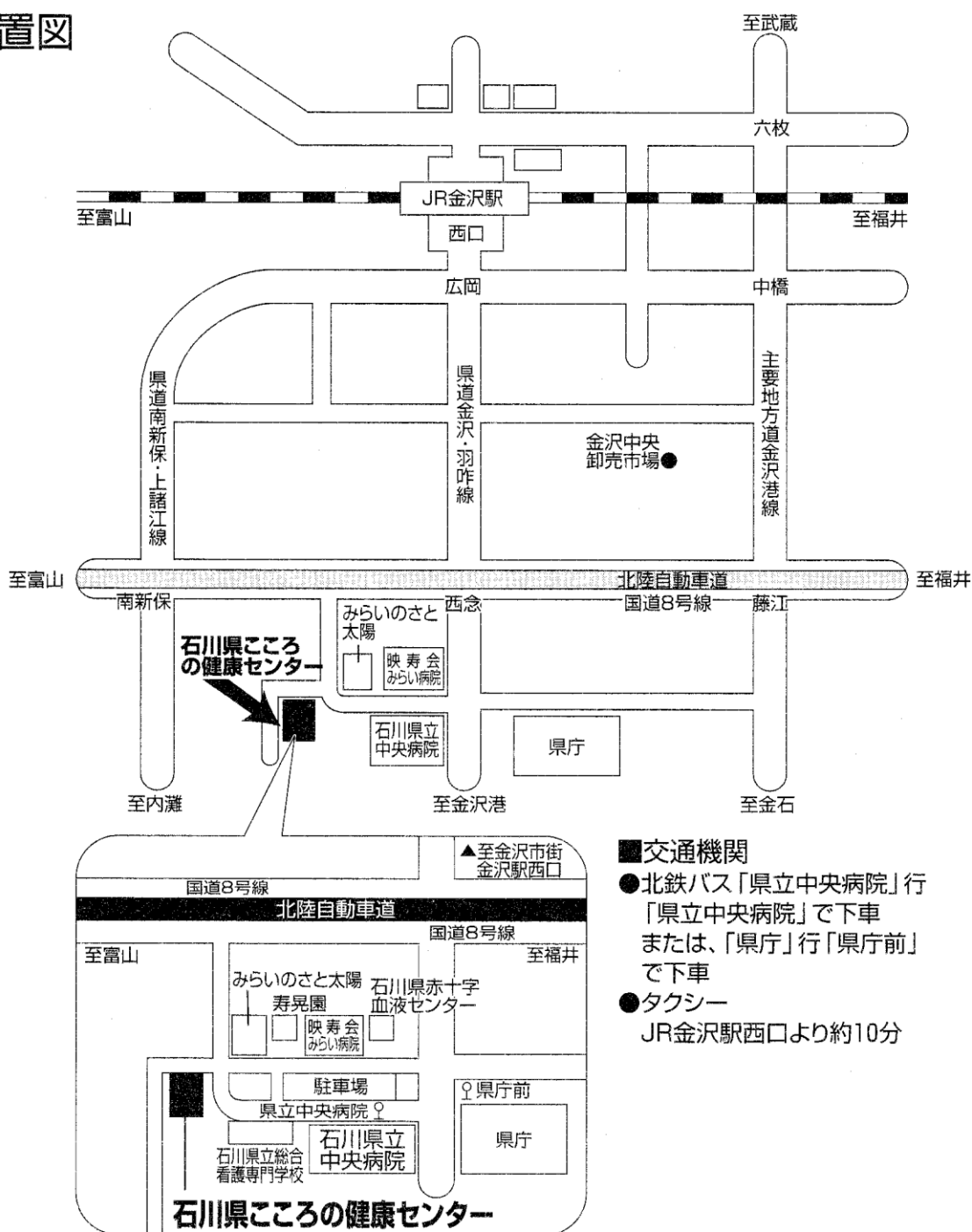
分類	番号	題名	上映時間	対象者	内容
こころの健康	2217-4	企業戦士のメンタルヘルス ④帰宅恐怖症候群	16分	一般	家へ帰りたくても、家庭に父親の存在場所が無いため帰れない。クリニックへ駆け込み寺のように駆け込んでくる。妻の言動の影響が大きい。
	2217-5	企業戦士のメンタルヘルス ⑤スーパーウーマン症候群	20分	一般	スーパーウーマン症候群とは、スーパーウーマンになるうとして起ってくるストレス精神障害。①職場の第一人者 ②妻として充実した家庭 ③母親としての子育て等を望む。
	2218	根絶! 夫からの暴力 あなたは悩んでいませんか?	27分	一般	平成13年4月に配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律が施行された。
	2219	こころだって風邪をひく ～メンタルヘルス対策を進めよう!～	41分	一般	平成12年8月に、労働省から発表された事業場における労働者の心の健康づくりのための指針について。
	2220	ドメスティックバイオレンスは犯罪です	20分	一般	日本各地に駆け込みシェルターがある。
	2221	再出発へのサポート ～女のスペース・おん駆け込みシェルターの現場から～	18分	一般	DVから逃れてくる女性達の駆け込みシェルターの現状と問題点を描く。
	2222	米国東海岸の挑戦 前編	23分	一般	ボストン、ケンブリッジをはじめとする米国東海岸地域は、ドメスティックバイオレンスに対する先進的な取り組みで知られている。
	2223	米国東海岸の挑戦 後編	21分	一般	マサチューセッツ州におけるドメスティックバイオレンスの被害者へのサポートと、加害者への対処は進んでいる。ある被害者女性へのサポート状況を紹介。
	2224	ひきこもる心と向き合うには	73分	一般	ひきこもりの子供を持つ家族の心構えについて。
	2225	あなたの心元気ですか!	19分	高校生	多感な時期にある高校生が心の病を理解し、どのように対処するかの工夫を考え、学ぶために制作された。
	2226	ストーカー対策 女性が身を守るために	30分	女性 一般	ストーカー犯罪を中心に、女性が被害者になる犯罪事例をドラマで再現し、対策を解説。
	2227	なくせ! ストーカー! 心の間に潜むもの…	40分	女性 一般	ドラマを用い、ストーカー犯罪を分かりやすく解説。ストーカー被害に遭わないようにし、ストーカーを作らないようにする方法を示唆。
	2228	映像版・いいかげんに生きよう	22分	一般	摂食障害者の自助グループNABA 活動編。
老人精神保健	2301	花いちもんめ	127分	一般	老人性アルツハイマー型痴呆症の男性に振り回される家族と親族の苦悩を描いた映画。
	2302	ぼけのお年寄り介護	22分	一般	高齢化社会の到来を見越し、ぼけのお年寄り介護の方法が、真剣に探し求められている。
	2303	痴呆性老人の介護者のために～心の旅路～	77分	一般	在宅老人（一人暮らし）に対する訪問看護の仕方について。
	2304～ 2305	痴呆老人の看護（1）（2）	各20分	一般	痴呆老人の特徴（症状）とそのかわりについて解説。
	2306	痴呆性老人の在宅介護Ⅰ ～ぼけの病状に対応するために～	24分	一般	ぼけの老人に対する在宅介護の仕方について。
	2307	痴呆性老人の在宅介護Ⅱ ～ぼけのお年寄りの正しい理解のために～	25分	一般	千葉市にある稲毛ホワイエの紹介。（週3日、昼間の間、ボランティアの人達がボケのお年寄りの世話をする施設）
	2308	痴呆性老人の家庭介護Ⅰ ～痴呆の理解と支援サービス～	32分	一般	痴呆とはどのようなものかを教示すると共に、痴呆性老人の家庭介護方法を教える。
	2309	痴呆性老人の家庭介護Ⅱ ～家庭介護の実際～	28分	一般	家庭介護の基本的な心構えを、3人の体験者談を参考にまとめた。
	2310	心がうごけば身体も動く(上)	23分	一般	楽しくリハビリに取り組む老人の姿を描いたもの。どうしても自分の足で立ってみたい!
	2311	雪見橋は行く	25分	一般	岩手県の豪雪地帯にある二つの村の老人医療面での画期的な成果を描いたもの。
	2314	もし痴呆が起きたら ～アルツハイマー型老年痴呆の介護編～	23分	一般	アルツハイマー型痴呆老人に対する介護の仕方について。
	2316	おとしよりの介護 「第8巻」	37分	一般	痴呆性老人の問題行動と予防のてだてについて説明。
	2317	人は薬 痴呆性老人と介護のコツ	25分	一般	痴呆性老人に対する介護の仕方について。
2415	ひとりぼっちをなくそう	40分	一般	精神障害者本人の会の紹介	
精神保健	2401	君は空の青さを知っているか	24分	一般	神奈川県における各作業所の取り組みを描いたもの。
	2403	150万人の訴え	29分	一般	全国で150万人の精神障害者が、世間からの偏見と差別で苦しんでいる。
	2404	つるい養成邑病院(釧路の口マン)	40分	一般	ある医師が、釧路で「人間解放」「自然に帰れ」を理念とした画期的な病院を開設した。

分類	番号	題名	上映時間	対象者	内容	
精神	2405	ひとりぼっちじゃない ～自立するファウンテンハウス～	35分	一般	ニューヨークにある精神障害者の社会復帰施設、ニューヨークファウンテンハウスの紹介。	
	2406	僕たちのみた青い空	24分	一般	神奈川県内の患者会「やまゆり会」の活動の様子を描いたもの。	
	2407	正しい知識は回復への道	14分	一般	統合失調症は、正しい知識があれば治る病気である。	
	2408	ゆっくり治療し再発を防ごう	14分	一般	統合失調症の治療と再発を防ぐ方法。	
	2409	私たちは家族 ～アメリカ家族会発展の秘密～	25分	一般	ナミ「NAMI」（日本で言う全家連）についての発展とその紹介。	
	2410	支えあうなかで ～精神障害者とその仲間たち～	35分	一般	JHC板橋と作業所「えごのみ」の紹介。	
	2411	精神障害者が受けられる税制上の特典	11分	一般	精神障害者には、各種税金にかかる基礎控除、非課税、減免が認められている。	
	2412	今ここにいきる ～精神障害者とともに～	29分	一般	高知県における精神保健活動の紹介。	
	2413	ここにおいでよ ～精神障害者を支える地域作業所～	30分	一般	地域作業所の紹介。	
	2414	知っておきたい薬の知識	15分	一般	統合失調症の治療薬についてわかりやすく説明。	
	2416	サンフランシスコのハーフウェイハウス	20分	一般	サンフランシスコで活発に活動している病院と家庭の中間にあたる施設の紹介。	
	2419	全家連30年のあゆみ	31分	一般	日本全家連の生い立ちから現在までの歴史。	
	2420	あちこたねえ ～精神障害者の地域生活支援～	30分	一般	新潟県のすもん村にある通所授産施設の紹介。「あちこたねえ」とはもうだいじょうぶという意味。	
	神	2430	僕たちは飛行機に乗った	41分	一般	通所授産施設「またたびの家」のメンバーが、飛行機で沖縄旅行した記録。
		2431～ 2432	精神障害者ケアマネジメント 第1巻 第2巻	38分 48分	一般	精神障害者ケアマネジメントの進め方について説明。
	保	2433	精神保健福祉ビデオシリーズ ③精神障害者をもつ人への援助の実際	23分	一般	病院と患者の中間施設として諸々の施設が存在する。
		2434	精神保健福祉ビデオシリーズ ④精神障害者をもつ人のケアマネジメント	21分	一般	基本的な考え方を基に、諸々の取り組みが行われている。
		2435	精神保健福祉ビデオシリーズ ⑤ノーマライゼーション	27分	一般	精神障害者に対するノーマライゼーション社会の実現を目指す。
	健	2436～ 2437	あせらずにゆとりをもってむりしない前編・後編	38分 30分	一般	統合失調症を中心とした精神障害の心理教育のためにつくられたビデオ。
		2438	心理教育による精神障害者の 家族支援	34分	一般	統合失調症歴があり、今は両親と療養生活を送る男性を例として精神障害者の家族に対する心理教育の大切さを訴える。
		2439	統合失調症を生きる 妄想編その1 ～四六時中のぞかれていた七年間～	32分	一般 青年	23歳で統合失調症を発症した女性の、7年間にわたる戦いを描いたもの。
		2440	統合失調症を生きる 妄想編その2 ～ヒーローたちの戦い～	35分	一般 青年	20代で統合失調症を発症した男性の体験を、同じ経験を持つ仲間と語り合う様子を描いたもの。
		2441	今日の精神科入院医療 ～心の病気を克服するために～	26分	一般	18歳の大学受験生が、統合失調症と診断され医療保護入院となるが、順調に回復し通院治療となる。精神保健福祉法の解説と一般的な治療法を紹介。
		2442	精神保健福祉ビデオシリーズII 共生の時代へ 第4巻ピアカウンセリング	23分	一般	ピアカウンセリングの実際と概要。
2443		正しく理解し回復を目指そう	20分	一般	2407、2408、2414の改訂版。	
2444		薬の作用と上手な付き合い方	20分	一般		
2445		この街で自分らしく生きる	20分	一般		
2446		コートに輝く笑顔と汗 DVD	35分	一般	精神障害者バレーボール全国大会の様態を紹介。	
2447	ピアカウンセリングセミナー 基礎編シリーズ DVD	284分	一般	ピアカウンセリングを共に学ぶ仲間づくり。信頼関係づくりの基礎を学ぶ。		
アルコール関連	2501	アルコールの害シリーズ ～酒害の予防～	26分	一般	最近の犯罪の多くはアルコールと関連している。	
	2502	アルコールの害シリーズ ～10代の飲酒問題～	28分	一般	10代の飲酒問題は、極めて深刻な社会問題となっている。	

分類	番号	題名	上映時間	対象者	内容
ア ル コ ロ ニ ヤ 酒 類 飲 み に 関 連	2503	アルコールの害シリーズ ～アルコール依存症者の家族～	14分	一般	家族と入院患者が、ファミリーウィークに話し合いをする。(アメリカ)
	2504	アルコールの害シリーズ ～女性とストレス～	21分	一般	ある薬物、アルコール依存症の女性の実情を描く。
	2505	アルコールの害シリーズ ～胎児性アルコール症候群～	10分	一般	妊娠中の女性がアルコールを飲むと、胎児性アルコール症候群の赤ちゃんが生まれる。
	2506	アルコール依存症とは	28分	一般	あるアルコール依存症者の体験をもとに構成された。
	2507	アルコール依存症者の心理	20分	一般	多くのアルコール依存症を克服した人々のインタビューをもとに構成された。
	2508	アルコール依存症 ～家族の心理～	23分	一般	多くのアルコール依存症を克服した家族のインタビューをもとに構成された。
	2509	アルコール依存症 ～アルコール依存症からの回復～	27分	一般	あるアルコール依存症者の体験をもとに構成された。
	2510	アルコール依存症 ～酒なし生活術～	20分	一般	神と悪魔が戦っている。その戦場は、人間の心の中である。自分の自覚がいつ持てるか。
	2511	酒とバラの日々	122分	一般	ある若い夫婦がアルコールによって、共に墮落の人生に落ち込んで行く様子を描いた映画。
	2512	老化と飲酒	26分	老人	老人は、適正飲酒を心がけること。
	2513	アルコールと循環器	20分	一般	アルコールは、肝臓はもとより心臓にも多大な影響を与える。
	2514	肝臓とアルコール代謝	29分	一般	アルコールに対する肝臓の働きを解説したもの。
	2515	あと一杯が飲めるか ～ソーシャルドリンカーへの手引き～	43分	一般	日頃、適正飲酒の指導などを行っている保健師さんが、飲酒によって起こる障害を予防するにはどうしたらよいかを精神科医と内科医に教示をうけた。
	2516	酒飲み上手は生き上手	16分	青少年	若いあなたへ、上手な飲酒のアドバイス。飲酒量の単位とは何か。肝臓の処理能力は、1単位の消化に3時間必要である。妊娠中の女性の飲酒は絶対危険。
	2517	お酒と人生 ～飲み方・酔い方・楽しみ方～	17分	一般	飲酒に関して、1単位ではほろ酔いかげん・2単位では本格的な酔い、体温が上昇、みゃくが早くなる・3単位ではめいいてい期、気が大きくなっておこりっぽくなる。
	2518	アルコールキッド ～今、お酒にはふれないで～	9分	青少年	若年者が飲んだアルコールは脳細胞の破壊を進める。又、肝臓で分解されてアセトアルデヒドに酸化されるが、これを分解する酵素の働きが弱い。
	2519	未成年者とアルコール	23分	未成年者	未成年者の飲酒とイッキ飲み被害の防止を訴える。
	2520	アルコール依存症 ～依存症の概要～	29分	一般	酒を止められない病気である。アルコール離脱症状の出現。断酒以外に回復の道がない。
	2521	アルコール依存症 ～ケース事例～	35分	一般	アルコール依存症になった人々の事例。
	2522	アルコール依存症 ～専門職の活動～	33分	一般	アルコール依存症者に対する相談・援助窓口について。
	2523	お年寄りとお酒のつき合い方	28分	老人	お年寄りがお酒を飲むときの注意点について。
	2524	お年寄りとアルコールの対策 ～アルコール依存症は病気です～	22分	老人	ある老人のアルコール依存症の実例。回復の方法を教示。老人のアルコール依存症は、年々増えている。
	2525	もうひとつの人生(上)	45分	一般	アルコール依存症になった人々の事例。
	2526	もうひとつの人生(下)	55分	一般	〃
	2528～ 2531	アルコール依存症への道 (1)～(4)	各20分	一般	予防編(女性むけ、一般飲酒者むけ) 回復編(家族むけ、依存症本人むけ) に分けて、説明。
	2532	未成年者にアルコールなんかいらぬ	36分	未成年者	最近、中・高校生の飲酒が急激に増加している。
2533	アダルトチャイルド	32分	一般	従来は、アルコール依存症の親のもとで育った人のことを言ったが、今では広く機能不全家族のもとで育った人のことを言う。	
2534	アルコール依存症 ～回復プロセスと再発予防～	40分	一般	回復とはすなわち、再発を予防することでもある。	
2535	薬物依存 ～孤独そして絶望からの脱出～	29分	一般	群馬県藤岡市上日野にある民間薬物依存者回復施設「ダルク」についての紹介。	
2536	強迫的ギャンブル回復施設 ワンダーポート	6分	一般	ギャンブル依存症者が共同生活をしながら回復を目指す施設『ワンダーポート』の紹介。	

分類	番号	題名	上映時間	対象者	内容
心理 面接 技法	2601	自立訓練法の実際	30分	一般	心身をリラックスし、調整する、セルフコントロール法の実際を分かりやすく解説したもの。
	2602	リラクゼーションの実際	19分	一般	筋弛緩法(生理的な緊張を解き、心理的な安静を得ようとするもの)
	2603	続リラクゼーションの実際	17分	一般	筋弛緩法を実行してもうまくいかない人のためのA-B-A方式の解説。
	2604	箱庭療法の基礎理論	19分	一般	砂箱と色々なミニチュアを使って行われる心理療法を解説。
	2605	箱庭療法の症例研究	23分	一般	箱庭の作品は、絵画や粘土創作と比べて、じょうずへたが無く、誰にでも気軽に出来る。
	2606	絵画療法〔1〕	20分	一般	心身症と離人症を呈した患者が、絵画療法によって立ち直った例を、患者の方から描いたもの。
	2607	絵画療法の理論〔2〕	24分	一般	その場で描いてもらう方法と、あらかじめ描いて持参してもらう方法がある。
	2608	絵画療法の症例研究〔3〕	32分	一般	心身症と離人症を呈した患者が、絵画療法によって立ち直った例を、医師の方から描いたもの。
	2609	ケースの心をとらえる面接Ⅰ	23分	一般	どのような方法で面接を行えばよいかを教示している。
	2610	ケースの心をとらえる面接Ⅱ	27分	一般	就職を目前にした大学生に対するカウンセリングの仕方を教示している。
	2611	ロールシャッハテスト	30分	一般	インクのしみで出来たカードを被検者に見せ、それぞれのカードに示される様々な反応を記録、検討して被検者の性格や人格像を見極める。
	2612	心理療法としての箱庭と子どもへの適応の方法	51分	一般	カルフ婦人が、子供が勉強で疲れた心を癒すために、箱庭療法を行いに来る。
	2613	フェイス トウ フェイス 1巻 ～マイクロカウンセリング～	24分	一般	他人とうまく付き合っていくための技法を、マイクロトレーニングという方法で教示する。
	2614	フェイス トウ フェイス 2巻 ～積極技法ほか～	26分	一般	いいかえと要約、感情の反映、フィードバック、積極技法。
	2615	フェイス トウ フェイス 3巻 ～技法の統合ほか～	29分	一般	焦点のあて方、主張、不一致と複雑なメッセージ、技法の統合。
	2616	自立生活技能(S I L S)プログラム デモンストレーション編 ①モジュールの構成	24分	一般	アメリカの精神科医師が、精神障害者の自立生活技能モジュールを開発した。
	2617	自立生活技能(S I L S)プログラム デモンストレーション編 ②導入とビデオを用いた質疑応答	20分	一般	導入・・・技能領域の学習への適切な導入のやり方を教示。ビデオを用いた質疑応答・・・ビデオを用いながら、適切に質疑応答を行う方法を教示。
	2618	自立生活技能(S I L S)プログラム デモンストレーション編 ③ロールプレイ	46分	一般	ロールプレイの適切なやり方を教示。
	2619	自立生活技能(S I L S)プログラム デモンストレーション編 ④実地練習ほか	56分	一般	日常生活の中で、実際にやること。
	2620	自立生活技能(S I L S)プログラム モジュール編 ①服薬自己管理モジュール	63分	一般	抗精神病薬について知る、正確な自己服薬と評価の仕方を知る、薬の副作用を見分ける。
2621	自立生活技能(S I L S)プログラム モジュール編 ②基本会話モジュール	42分	一般	コミュニケーションの言語的要素と非言語的要素。	
2622	自立生活技能(S I L S)プログラム モジュール編 ③病状自己管理モジュール	51分	一般	再発の注意サインを見つける、持続症状の対処方法を学ぶ。	
2623	自立生活技能(S I L S)プログラム モジュール編 ④余暇の過ごし方モジュール	23分	一般	レクリエーションの効果を明確にする。(ジョギング、水泳、バレーボール、映画、動物保護施設でボランティアなど)	
2624	パニックディスオーダー 6人の患者	9分	一般	次のようなパニック障害がおきる人がいる。(突然の発症、呼吸困難、窒息感、めまい、吐き気、嘔吐など)	
2626	行動療法的家族指導(BFM) ～治療技法の実際編～	53分	一般	BFMは、精神病患者とその家族が、生活上のストレスを減らすため、自分たちの対処技能を効果的に使えるように導くものです。	

位置図



- 交通機関
- 北鉄バス「県立中央病院」行
「県立中央病院」で下車
または、「県庁」行「県庁前」
で下車
- タクシー
JR金沢駅西口より約10分

こころの健康センター所報 第32号

平成23年1月発行

石川県こころの健康センター
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地
電話 (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

- ホームページ

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/kokoro/top.html> (こころの健康センター)
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/hattatu/top.htm> (発達障害支援センター)



石川県こころの健康センター

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地 TEL (076) 238-5761